

令和5年度
事業報告書

社会福祉法人
四日市市社会福祉協議会

目 次

◎ 会務報告	1
◎ 総括	3

総務課

1. 法人運営事業	5
(1) 第6次四日市地域福祉活動計画の推進	
(2) 職員研修	
(3) 福祉サービス相談窓口の開設	
(4) BCP（事業継続計画）の推進	
①安否確認訓練	
②災害ボランティアセンタースーパーバイザー養成研修	
③部署単位のBCP検討	
④BCP緊急対策会議及び災害ボランティアセンター設置訓練	
(5) システム化推進プロジェクト	
(6) 雇用環境向上と職員の確保	
(7) 団体活動支援	
2. 市民啓発事業	6
(1) 社協だより「かけはし」	
(2) 四日市市社会福祉大会	
(3) ホームページの更新	
3. 資金貸付事業	8
(1) 生活福祉資金貸付事業	
(2) 新型コロナウイルス特例貸付	
(3) 資金貸付事業	
4. 財源確保	9
(1) 財政基盤の安定化	
①社会福祉協議会会費	
②寄付金等	
③資産運用	
(2) 共同募金運動	
(3) 収益事業	
①「喫茶ふれあい」	
②「総合会館売店」	
③その他	
5. その他の福祉事業	10
(1) よっかいち福祉の店	
(2) 生活困窮者支援事業	
(3) 実習生等の受け入れ実績（総数）	
6. 職員の安全衛生事業	12

地域福祉課

1. ふれあいのまちづくり事業	13
(1) 地区社会福祉協議会支援	13
①運営費等の助成	
②研修会等	
③福祉協力員等活動費補助事業	
④地域福祉活動メニュー事業	
⑤ふれあいいきいきサロン事業	
(2) 地域コミュニティの推進	16
①生活支援コーディネーター	
②四日市市小地域福祉活動事業（拠点事業）	
③ふれあいいきいきサロン推進事業及び住民主体サービスの推進	
④四日市市福祉教育大学	
⑤社会福祉相談援助実習	
⑥防災・災害支援事業	
(3) 包括的福祉総合相談窓口の設置	22
①成年後見サポートセンター	
②自立生活困窮者対策支援事業（リユース事業）	
③食品ロス削減にかかるマッチング事業（リユース事業）	
④福祉総合相談事業	
⑤四日市日常生活自立支援センター	
2. 福祉ボランティアのまちづくり事業	26
(1) 相談援助業務	26
①ボランティアに関する相談及びコーディネート業務	
(2) 情報収集と提供	26
①ボランティアニュース「ボランティアのたまご」の発行（月1回）	
②ボランティア団体会員募集一覧冊子の作成	
③ホームページの更新	
④フェイスブック、インスタグラムの活用	
(3) ボランティアのきっかけづくり事業	27
①はじめてのボランティア説明会	
②サマーチャレンジぷち	
(4) 人育て（人材育成）事業	28
①地域福祉活動拠点でのボランティア講座	
②障害者スポーツボランティア講座	
③福祉教育推進事業・福祉教育への支援	
(5) 活動支援（助成）事業	30
(6) 協働事業	30
①四日市ボランティアキャンペーン	
②ボランティアのつどい特別企画講座	
③コーディネートを考える会議	
④学生〔高校生・大学生〕ボランティア連携事業	
3. 福祉施設の管理運営	33
(1) 介護予防等拠点施設「ステップ四日市」	33
(2) 母子・父子福祉センター	33
(3) おもちゃ図書館	33

福祉支援課

1. 障害福祉支援室	35
(1) 障害者自立支援施設「共栄作業所」.....	35
(2) 障害者自立支援施設「たんぽぽ」.....	35
(3) 障害者自立支援施設「あさけワークス」.....	36
(4) 障害者福祉センター.....	37
①障害者デイサービス事業	
②失語症会話パートナーとの交流会	
③障害者相談業務	
④障害者福祉関係団体の支援	
⑤障害者福祉に関する啓発・情報提供	
(5) 障害者自立生活支援センター「かがやき」.....	40
①市町障害者相談支援事業	
②特定相談支援事業	
(6) 視覚障害者福祉センター.....	40
(7) 障害者就業・生活支援センター「プラウ」.....	41
①相談業務	
②関係機関との連携	
③企業向け研修会（就労・定着支援）	
④職場定着促進（職場定着研修会等）	
⑤ピアサポート活動	
(8) 障害者就労支援事業ワークセンター.....	42
①職場訓練の状況	
②地域活動支援センター事業（訓練機会の提供と就労についての相談支援）	
2. 高齢福祉支援室	44
(1) 中地域包括支援センター.....	44
①包括的支援事業	
②包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	
③要支援者ケアプラン及び総合事業ケアマネジメント	
④地域支援事業における介護予防事業	
⑤参加研修等	
(2) 訪問介護事業所.....	46
①介護保険訪問介護サービス	
②障害福祉サービス	
(3) 通所介護事業所「ゆりかもめ」.....	47
(4) くす在宅介護支援センター.....	48
①総合相談	
②地域介護予防普及啓発、福祉活動推進事業	
③介護予防推進事業	
④地域ケア会議	
⑤健康不明者状況把握事業	
(5) 居宅介護支援事業所.....	49
(6) 介護保険認定調査室.....	49
令和6年能登半島地震に関する支援状況	50

令和5年度事業報告

【会務報告】

●役員等による会議

会議名	内容
理事会	日時 令和5年6月1日 午後2時～3時15分 場所 市総合会館4階 会議室 議案 1. 理事候補者及び監事候補者の選任について 2. 評議員候補者の推薦について 3. 評議員選任・解任委員会の招集について 4. 令和4年度事業報告及び収支決算報告について 5. 令和4年度監査結果報告について 6. 定時評議員会の招集について 7. 各種規程の一部改正について
	日時 令和5年6月22日 (決議があったとみなされた日) 議案 1. 会長、副会長、常務理事の選定について
	日時 令和5年8月24日 午後2時～3時 場所 市総合会館4階 会議室 議案 1. 評議員候補者の推薦について 2. 評議員選任・解任委員会の招集について 3. 定款の一部変更について 4. 各種規程の一部改正及び新設について 5. 評議員会の招集について 6. 四日市市社会福祉大会における福祉功労者の表彰について
	日時 令和5年11月2日 (決議があったとみなされた日) 議案 1. 評議員候補者の推薦について 2. 評議員選任・解任委員会の開催について
	日時 令和6年3月14日 午後2時～3時20分 議案 1. 理事の一部変更について 2. 定款の一部変更について 3. 各種規程の一部改正及び新設について 4. 令和5年度収支補正予算について 5. 令和6年度事業計画及び収支予算について 6. 令和6年度資産運用管理方針について 7. 評議員会の招集について
日時 令和6年3月29日 (決議があったとみなされた日) 議案 1. 評議員選任・解任委員候補者の推薦について 2. 理事の一部変更について 3. 評議員会の開催について	
評議員会	日時 令和5年6月22日 午後2時～3時5分 場所 四日市商工会議所 会議所ホール I 議案 1. 理事・監事の選任について 2. 令和4年度事業報告及び収支決算報告について 3. 令和4年度監査結果報告について

評議員会	日 時	令和5年9月14日 午後2時～2時20分
	場 所	四日市商工会議所 会議所ホールⅡ
評議員会	議 案	1. 定款の一部変更について
	日 時	令和6年3月26日 午前10時30分～11時20分
評議員会	場 所	四日市商工会議所 会議所ホールⅡ
	議 案	1. 理事の一部変更について 2. 定款の一部変更について 3. 令和5年度収支補正予算について 4. 令和6年度事業計画及び収支予算について
評議員選任・解任委員会	日 時	令和5年6月1日 午後3時30分～4時
	場 所	市総合会館4階 会議室
	議 案	1. 評議員の選任について
評議員選任・解任委員会	日 時	令和5年8月24日午後3時30分～3時50分
	場 所	市総合会館4階 会議室
評議員選任・解任委員会	議 案	1. 評議員の選任について
	日 時	令和5年11月10日 (決議があったとみなされた日)
評議員選任・解任委員会	議 案	1. 評議員の選任について
	日 時	令和5年5月24日 午後2時～3時
監査	場 所	市総合会館3階 社会適応訓練室
	監査内容	令和4年度 事業報告及び収支決算について

総 括

少子高齢化が進行し、地域社会や家族のあり方が大きく様変わりしていく中で、人々のライフスタイルは多様化、福祉ニーズは複雑化の一途をたどっている。

生活に大きな影響をもたらしたコロナ禍については、令和5年5月に感染法上の位置づけが変わり、新たな局面を迎えたものの、社会や経済、福祉を取り巻く状況は大きく変化し、生活基盤が脆弱な方々の多くは、生活困窮の状況が継続している。

また、高齢者や障害者の方々においては、生活に必要な情報収集や他者との関わりがより希薄となり、社会的な孤立や引きこもりに陥るリスクも増加している。

こうした生活困窮だけではなく、孤立や引きこもり等複雑化・深刻化した課題に対して、既存の制度では十分に対応できないため、関係機関等と連携し課題の解決に取り組んだ。

事業運営においては、コロナ禍で急速に進歩したICT機器やオンラインツールを積極的に活用した業務の効率化等に取り組み、また、介護保険事業をはじめとする事業の見直し等、今後持続可能かつ安定的な運営を目指し、組織体制づくりにおいても検討を開始した。

地域福祉活動については、地区社会福祉協議会事業を中心に行動制限前の実施状況に戻せるよう再構築を進めた。ボランティア団体に対しては、状況確認を継続的に実施することにより、情報や学習機会の提供等事業に反映させ、活動支援に取り組んだ。

第6次四日市市地域福祉活動計画の4年目にあたる令和5年度は、基本理念「安心して暮らしていけることができる福祉のまちづくり～市社協の強みを生かし、つなげるからつながる～」に基づき、地域住民や関係機関の協力、連携を得ながら業務執行にあたった。

特徴的な取り組み

○総務課

- ・BCP（事業継続計画）の推進

発災時の職員安否確認訓練や災害ボランティアセンター設置訓練等を実施するとともに、部署単位のBCP検討を行い、有事の際に役立つ人材育成に努めた。

- ・デジタル化の推進

職員の勤怠管理やPC管理に対応できるシステム導入に向けて検討し、勤怠管理システムを取り扱う業者の選定に着手した。また、以前から運用しているグループウェア機能の活用や、法人内のスムーズな情報共有、ペーパーレス化を進めた。

- ・雇用環境の向上と職員の確保

人材確保と職員の待遇改善のため、嘱託職員の給与体系等を改定するとともに、正規職員の初任給アップを決定した。

正規職員の募集については、市広報紙以外に求人情報メディア等にも掲載し、優秀な人材の確保に努めた。

- ・広報・情報発信と市民啓発

第6次地域福祉活動計画“情報がつながる「しくみ」をつくる”に位置付けられた広報担当者連絡会議を開催し、担当者のスキルアップ研修を実施したほか、専門業者と提携して広報紙等のリニューアルを行った。

また、四日市市社会福祉大会において、新型コロナウイルス感染症の影響により中止していた福祉に関する講演会を4年ぶりに実施した。

- ・生活困窮者支援

新型コロナウイルス感染症の影響により生計維持が困難となり特例貸付を借り受けた世帯を対象に償還免除・償還猶予についての相談・申請受付を行った。相談においては生活支援室の食糧支援につなぐ等関係機関とも連携し、生活再建に向けての支援を行った。

○地域福祉課

・ふれあいのまちづくり事業

生活支援コーディネーターを4名配置し、「市エリア」「ブロックエリア」「地区エリア」「小地域エリア」の4つのステージに区分して事業を展開した。住民主体サービス団体の新規立上げを進めるとともに、住民同士の助け合いの活動を推進した。また、多様化する福祉課題に対して、関係機関と情報共有し、課題解決に向けたコーディネートを実施した。

ふれあいいいきサロン推進員を2名配置し、参加者が自宅から歩いていける場所で介護予防活動や交流のできる場づくりを進めた。

各地区民生委員児童委員協議会へ参画し、地域の福祉課題の解決に向けた活動を支援した。

多様化する福祉課題に対応するために調査研究を進めるとともに、コミュニティソーシャルワーカーを2名配置し、処遇困難事例等の相談にあたり既存の制度やサービスへつないでいく包括的な福祉相談の対応を実施した。さらに、関係機関との連携を密に取りながら問題解決や福祉ニーズの把握に努めた。

・成年後見サポートセンター事業

権利擁護関連においてスーパーバイズできる相談員2名を配置し、関係機関と連携した重層的支援体制づくりに向けて、成年後見制度や権利擁護の事業に関わる相談だけではなく、先駆的事業の開発として制度の狭間で支援の行き届かないケース等に対する相談支援を実施した。

成年後見制度利用促進法に基づく中核機関として、市より委託を受け成年後見サポートセンター事業を実施した。三士会（弁護士会、司法書士会、社会福祉士会）との連携会議や親族後見人のつどいの開催等成年後見制度の利用促進をすすめた。

・ボランティアセンター事業

新型コロナウイルス感染症が5類に移行し行動制限がなくなったが、各団体や関係機関等と相談、検討しながら事業を開催した。ボランティア活動や福祉を身近に感じてもらえるよう、学校や学生ボランティアとの連携や協働を進め、企業とはさまざまな機会を通じたつながりの継続を試みながら、事業の展開に務めた。また、ボランティアセンターのコーディネートの充実を図るために、コーディネートに関わる関係機関との情報交換・情報共有を実施した。

・日常生活自立支援事業

県社協から日常生活自立支援事業を受託し、福祉サービスの利用援助、日常的な金銭管理、書類等の預かり等の支援を行った。

○福祉支援課

新型コロナウイルス感染症の5類移行を受けて、引き続き利用者及び職員等の健康管理・感染予防対策をとりながら各種事業等について、徐々に通常の運営に戻した。

第四期指定管理期間の最終年として利用者本位のサービスの向上に努め、「公の施設」としての適正な事業所運営に努めた。

障害者福祉関連4施設（共栄作業所・たんぼぼ・あさけワークス・障害者福祉センター）は、第五期指定管理の申請を行い、管理者の指定を受けた。

また、業務の調整及び情報の交換を図るため、市障害福祉課と施設連絡調整会議を毎月1回、計12回開催した。

その他障害者福祉事業においては、利用者や家族の生活ニーズ及び就労に関するニーズに応えられるようサービスや支援内容の充実を図り、よりきめ細やかな対応ができるように努めた。

コロナ禍にあっても、中地域包括支援センター・くす在宅介護支援センターは、利用者・家族、地域住民等からの様々な相談に応じ、情報提供や個別支援を行った。

また、必要に応じてオンラインも活用し、地域ケア会議や医療・介護連携地域ケア会議に参画・開催し、地域課題の発見や解決方法の検討を行うとともに、認知症や介護予防事業にも取り組み、地域包括ケアシステムの構築に努めた。

介護保険サービス事業においても、引き続き利用者本位の支援が提供できるように努めた。

さらに、介護保険サービス事業の各種情報交換や収集、現状と課題分析等を目的に、高齢福祉支援室施設長会議を2回開催した。

総務課

1. 法人運営事業

(1) 第6次四日市地域福祉活動計画の推進

第6次四日市地域福祉活動計画の基本理念及び「つながる」というキーワードを継承し、以下の4つの基本目標を掲げている。

- ①情報がつながる「しくみ」をつくる
- ②活動がつながる「ひと」をつくる
- ③多様な主体がつながることで「あんしん」をつくる
- ④地域でつながる「わ」をつくる

目標達成に向けて、自己評価により現状と課題を洗い出し、進行管理として今後の取り組みを策定した。また、次期計画策定に向けた取り組みに着手した。

(2) 職員研修

職員の資質向上のため、全国社会福祉協議会（以下全社協）、市や県社協等が主催する派遣研修に158回、延べ98人を派遣した。また、虐待防止委員会研修、四社協主催の全体研修、新規採用職員研修、各職場研修を実施した。座学の研修の一部については、自席で受講できるよう、Web会議サービスや録画配信により実施した。

実施日	内容	講師
11月30日	虐待防止委員会及び身体拘束等の適正化委員会研修 「職場のメンタルヘルス」	三重県立看護大学 小池 敦 氏
2月26日	職員全体スキルアップ研修 「ケアする方を孤立させないために～ダブルケアの先進的な取り組みから～」	一般社団法人ダブルケアサポート 代表理事 東 恵子 氏 理事 植木 美子 氏

(3) 福祉サービス相談窓口の開設

四社協が提供する福祉サービスに対する利用者の満足度を高めるとともに、利用者の権利を擁護し、利用者が福祉サービスを快適に利用することができるよう支援するため、福祉サービス相談窓口を開設した。令和5年度は、苦情解決責任者が受けた利用者等からの苦情は0件だった。

(4) BCP（事業継続計画）の推進

①安否確認訓練

有事の際に職員の迅速な安否確認ができるように、グループウェアの安否確認機能を私物端末で活用可能であることの周知を図り、年間6回訓練を行った。

②災害ボランティアセンタースーパーバイザー養成研修

令和5年度災害ボランティアセンタースーパーバイザー研修受講職員を対象として、有事の際に役立つ人材となることができるよう研修を行った。

実施日	内容	講師
7月19日	・災害ボランティアセンターの役割と意義	office sonozaki 園崎 秀治 氏
8月16日	・災害ボランティアセンターの設置・運営のポイント ・災害支援における情報共有・ICTの重要性	
9月20日	・社協が進めるBCPの策定 ・災害関連の法律や制度	
10月18日	・被災地社協の災害ボランティアセンターの取り組み	
11月29日	・災害ボランティアセンターの設置運営を考えるワークショップ	

③部署単位のBCP検討

「パソコンを使わずに、どうしたら業務を継続できるか」をテーマに、パソコンが使えない状況を想定した業務継続方法を個人及び事業単位で検討した。

④BCP緊急対策会議訓練及び災害ボランティアセンター設置訓練

実施日	内容	参加者
2月22日	一定の被災状況の中で、職員の安否状況・出勤状況の確認、各部署の被災状況の確認と初動体制について確認する一連の流れの確認	・四社協月例会出席者
2月23日	職員間で災害ボランティアセンター運営のイメージができるように、ニーズ受付及びボランティア受付までの流れを再確認する。	・四社協職員 ・市危機管理課職員 ・市福祉総務課職員

(5) システム化推進プロジェクト

職員の勤怠管理における電子化導入に向け、システム取扱業者から概要説明を受け、業者の選定に着手した。また、以前から運用しているグループウェアにおいて、これまで十分に利用できていなかった機能を活用し、法人内のスムーズな情報共有やペーパーレス化を進めるとともに、法人全体のセキュリティ強化を図った。

(6) 雇用環境向上と職員の確保

令和5年度から嘱託職員の給料格付けを改善し、資格手当を一部追加した。正規職員については人材確保と職員の待遇改善のため、令和6年度からの初任給アップを決定した。

正規職員の採用にあたっては、民間の求人サイトやタウン情報誌、主要駅のデジタルサイネージを活用し、優秀な人材の確保に努めた。

(7) 団体活動支援

三重県共同募金会四日市市共同募金委員会、四日市市民生委員児童委員協議会連合会、四日市市地区社会福祉協議会連絡協議会、四日市市老人クラブ連合会、四日市市遺族会の事務局及び、四日市母子寡婦福祉会の運営支援を行った。

2. 市民啓発事業

四社協の事業の紹介や、市民にとって必要な福祉情報等をわかりやすく提供するため、広報紙を発行するとともに、四日市市社会福祉大会を開催し、市民の福祉意識の向上に努めた。

四社協ホームページは、随時内容更新を行い、タイムリーな情報提供に努めた。また、広報・情報発信の充実、広報担当者の知識等の向上のため、広報担当者連絡会議を開催し、研修等を通じて、広報内容についての検討を行った。

(1) 社協だより「かけはし」の発行

「四社協事業の紹介等」「市民の福祉活動と市民の声の紹介」「福祉情報の提供」を編集方針として発行した。特集記事を企画し、主催講座の案内や災害ボランティアセンターについて掲載した。発行回数は年3回、各号約146,500部を市内全戸に配布した。その他、PDF版を四社協ホームページに掲載した。同時に、希望される視覚障害者に、点訳かけはし（各号13部）、録音かけはし（CD版各号14枚）を発行した。録音かけはしについては、より多くの人に利用してもらうため、音声データをホームページに掲載した。

発行日	内容
7月5日	<p>【第159号】 [特集・表紙：四日市市社会福祉協議会は何をしているの?] 全4ページ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●障害者福祉センターからのお知らせ WITH (「合理的配慮」をみんなで考えよう) ●お知らせ <ul style="list-style-type: none"> ・ひとり親家庭のためのパソコン講座受講者募集 (母子・父子福祉センター) ・三療学術講習会受講者募集 ((視覚障害者福祉センター) ●令和5年度予算及び令和4年度決算の報告 ●令和4年度会費のお礼 ●寄付者のメッセージ ●寄付のお礼
10月20日	<p>【第160号】 [表紙・特集：活動の「リスタート」] 全4ページ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●障害者福祉センターからのお知らせ WITH (障害者福祉講座の案内) ●お知らせ <ul style="list-style-type: none"> ・親子飾り巻き寿司教室参加者募集 (母子・父子福祉センター) ・フロンティア四日市 (四日市市老人クラブ連合会) 加入者募集 (四日市市老人クラブ連合会事務局) ●赤い羽根共同募金について ●寄付者のメッセージ ●寄付のお礼
2月20日	<p>【第161号】 [表紙：今知ってほしい災害ボランティアセンター] 全4ページ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●障害者福祉センターからのお知らせ WITH (障害者福祉講座の報告・障害者デイサービスの利用者募集) ●お知らせ <ul style="list-style-type: none"> ・サークル受講生募集 (母子・父子福祉センター) ●赤い羽根共同募金運動のお礼 ●たんぽぽ福祉講座の参加者募集 ●四日市市ボランティアキャンペーンのお知らせ ●寄付者のメッセージ ●寄付のお礼

(2) 四日市市社会福祉大会

永年にわたり、社会福祉活動に功績のあった個人及び団体の表彰を行った。令和2年度から新型コロナウイルス感染症の影響により中止していた福祉に関する講演会を4年ぶりに実施した。

開催日	場所	福祉功労者表彰			参加者
		表彰区分	被表彰者数		
			個人	団体	
11月7日	市文化会館第1ホール	四日市市長表彰	2	0	・被表彰者
		四日市市長感謝	3	0	
		四日市市長特別表彰	0	2	
		四日市市社会福祉協議会会長表彰	13	0	・一般来場者 (323名)
		四日市市社会福祉協議会会長感謝	19	0	
		三重県共同募金会四日市市共同募金委員会会長表彰	0	2	
		合計	37	4	

		講演 「ふつうの人ってどんな人？」 ～発達障害を知る・生きる～ 講師 小島 慶子 氏 (エッセイスト・東京大学大学院情報学環客員研究員)	
--	--	---	--

(3) ホームページの更新

四社協の組織や事業とともに、職員募集情報や各種講座案内等の記事の掲載を行い、タイムリーな情報を提供できるよう努めた。外国籍市民向けに外国語に変換できるシステムを導入し、令和5年度は581件のアクセスがあった。

3. 資金貸付事業

(1) 生活福祉資金貸付事業

低所得者、障害者、高齢者を対象に貸付の相談、申請、返済等の窓口を担当した。

資金種類	令和5年度 貸付決定件数	令和4年度 貸付決定件数
教育支援費・就学支度費	21	19
福祉費（転宅費）	2	0
福祉費（技能習得費）	3	0
障害者自動車購入資金	0	1
福祉費（生保生活必需品購入費）	1	6
緊急小口資金	20	30
総合支援資金	0	1
合計	47	57

(2) 新型コロナウイルス特例貸付

新型コロナウイルス感染症の影響による休業や失業等により、世帯収入が減少し生計の維持が困難な世帯を対象に、令和2年3月25日から令和4年9月30日まで無利子・保証人不要の特例貸付の相談・申請窓口を実施した。この貸付を利用した借り受け人に対し償還免除・償還猶予の相談・申請受付を行った。

資金種類	償還免除決定件数	償還猶予決定件数
特例緊急小口資金	142	74
特例総合支援資金（延長貸付含む）	150	60
合計	292	134

(3) 資金貸付事業

福祉金庫貸付は生活保護受給世帯及び生活保護申請中の世帯を対象に市保護課と、国民健康保険高額医療費資金貸付は市保険年金課、介護保険貸付は市介護保険課と連携して貸付業務を行った。

	令和5年度		令和4年度	
	貸付件数	総額（円）	貸付件数	総額（円）
福祉金庫貸付	515	6,718,000	540	7,247,000
内訳：			内訳：	
生活保護受給世帯	363		生活保護受給世帯	383
生活保護申請中世帯	152		生活保護申請中世帯	157

国民健康保険 高額医療費貸付	令和5年度		令和4年度	
	貸付件数	総額 (円)	貸付件数	総額 (円)
	5	61,000	1	190,000

介護保険資金貸付	令和5年度		令和4年度	
	貸付件数	総額 (円)	貸付件数	総額 (円)
	6	123,389	0	0

4. 財源確保

(1) 財政基盤の安定化

①社会福祉協議会会費

会費の種類	令和5年度		令和4年度	
	会員数	会費総額 (円)	会員数	会費総額 (円)
一般会員	2,065	1,033,070	1,579	1,120,960
団体会員	313	3,398,335	318	3,486,920
合計	—	4,431,405	—	4,607,880

②寄付金等

(ア) 現金

	令和5年度	令和4年度
福祉事業全般への寄付 (善意の基金へ積立) 総額 (円)	15,322,736	3,623,974
指定する事業への寄付総額 (円)	1,518,055	141,514
合計 (円)	16,840,791	3,765,488

(イ) 物品寄贈

電動クレンジングベッド、車イス、非常食品「白い小箱」、紙オムツ、食料品、衛生用品等

③資産運用

自主財源の確保を目的に、本会資産運用規程に基づき、長期国債を中心とした資産運用を行い、令和5年度は利息により3,484,200円の利益があった。

(2) 共同募金運動の推進

新型コロナウイルス感染症の影響により中止していた街頭募金を再開。11月に開催されたB-1グループにちなみ、B-1オリジナルこにゅうどうくんバッジを3,300個作成し啓発した。

年度	目標額 (円)	実績額 (円)	達成率 (%)
令和5	44,977,400	36,250,224	80.59
令和4	44,364,000	36,806,971	82.96

(3) 収益事業

①「喫茶ふれあい」の経営

令和4年10月に営業時間を短縮。令和5年度も11時から14時30分までの営業とした。

	令和5年度	令和4年度
営業日数	245	242
年間総収入 (円)	9,127,479	9,153,964

1日平均利用者数(人)	37	37
1日平均売上額(円)	37,255	37,826

②「総合会館売店」の受託運営

	令和5年度	令和4年度
営業日数	243	243
年間総収入(円)	20,227,328	20,269,942
1日平均利用者数(人)	176	181
1日平均売上額(円)	83,240	83,415

③その他

令和5年11月に開催されたB-1グランプリにて、飲料販売ブースを担当した。2日間で1,686,508円の収益があった。

5. その他の福祉事業

(1) よっかいち福祉の店

令和5年度末での円滑な事業終了を念頭に置き最終年度の運営を行った。商品の減少により即売会も2カ所のみの出店となった。運営委員会でも事業終了の承認を得て、3月末をもって閉店した。

年度	開店日数	売上点数	売上額(円)
令和5	243	985	340,770
令和4	243	1,238	455,850

(2) 生活困窮者支援事業

市から生活困窮者自立支援事業を受託し、市保護課をはじめハローワークや関係機関との連携にて、生活困窮者の相談支援や就労支援等を行った。専任の通訳を配置し外国籍市民の相談にも丁寧な対応を行った。

<自立相談支援実績>

令和5年度	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	年間合計
	相談者数	147	161	132	167	160	149	相談者数 1,789 延べ相談者数 4,956
	延べ相談者数	451	462	432	432	458	419	
	月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
	相談者数	148	127	171	142	129	156	
延べ相談者数	421	333	437	332	324	455		
令和4年度	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	年間合計
	相談者数	135	159	134	132	145	191	相談者数 1,765 延べ相談者数 5,100
	延べ相談者数	389	508	473	442	478	456	
	月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
	相談者数	133	161	144	137	133	161	
延べ相談者数	358	487	382	334	346	447		

※延べ相談者数4,956名中、18歳以下のいる世帯は1,719件、65歳以上のいる世帯は1,285件、外国籍市民からの相談は延べ537件であった。

●主な他機関連携延べ件数

年 度	他機関 連携数	保護課	就労関係 (ハロー ワーク 等)	民生委員 (主任児童 委員を含む)	相談機関 (包括/在 介/障害/ 発達等)	行政 機関	医療 機関	学校 関係
令和5	2,854	649	184	40	201	545	54	246
令和4	3,048	778	115	96	309	536	63	167

※連携機関については、43機関と多種にわたった。

●世帯別相談件数

年 度	実相談件数	単身	夫婦世帯	ひとり親世帯	その他	(18歳以下 を含む世帯)
令和5	1,789	734	184	319	552	(1,719)
令和4	1,765	670	207	282	606	(1,700)

●世代別相談件数

年 度	実相談件数	60代以上	50代	40代	30代	20代以下	不明
令和5	1,789	493	385	304	303	239	65
令和4	1,765	429	350	414	260	242	70

●三重県社会福祉協議会が実施する「みえ福祉の『わ』創造事業」を活用し、以下の支援を行った。

年 度	生活困窮者支援 緊急食糧提供事業 (フードバンク) 対応件数	緊急時物品等支援事業 (日用消耗品、 おむつ、宿泊費等) 対応件数	生活困窮者就労 活動支援事業 (交通費助成) 対応件数	賃貸住宅入居 保証事業 対応件数
令和5	278	148	35	0
令和4	330	153	0	0

●食糧や物資を活用した支援件数

NPOや地区市民センター等を通じて提供を受けた、賞味期限間近の災害時備蓄食糧・物資等を生活困窮者支援に役立てることができた。

年 度	受け入れ件数	延べ支援対象件数
令和5	100	975
令和4	86	1,054

(3) 実習生等の受け入れ実績（総数）

各事業所において将来の福祉を担う人材育成を目的に、福祉専門職や看護師実習の受け入れを行い、四社協が持つ機能、役割等について学ぶ機会を提供した。

種別	人数
看護師	28
介護福祉士	2
社会福祉士	5
言語聴覚士	0
令和5年度合計	35
令和4年度合計	20

また、各事業所において小学校・中学校福祉体験等を受け入れ、施設や障害への理解を促す機会を提供した。

種別	人数
小・中職場体験	4
小・中福祉体験	25
令和5年度合計	29
令和4年度合計	3

6. 職員の安全衛生事業

労働安全衛生法第18条に基づき、衛生委員会を年3回実施した。

	実施日	内容
第1回	6月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度衛生委員会の実施計画について ・産業医講話「夏季の健康・熱中症と食中毒について」
第2回	9月22日	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークライフバランス(時間外労働・年休消化)の改善について ・産業医講話「地球規模の気候温暖化と環境破壊による影響」 「サプリメントについて」 ・「全国労働衛生週間」の実施に合わせ、10月1日～7日「ゼロ災活動」を実施し、全職員にワッペンを配布、啓発
第3回	3月8日	<ul style="list-style-type: none"> ・産業医講話「職員の健康について」 ①令和5年度職員健康診断結果報告 ②健康な身体を維持するために ③国民栄養統計の結果 ・ストレスチェック結果報告、産業医の講評 ・令和6年度「年間安全衛生管理計画」について ・「安全衛生に関する基本方針」及び「年間安全衛生目標・スローガン」の決定

地域福祉課

1. ふれあいのまちづくり事業

(1) 地区社会福祉協議会支援

地域福祉活動推進の基盤となる地区社会福祉協議会（以下地区社協）との連携強化に努めた。

①運営費等の助成

- (ア) 地区社協組織活動補助金…1地区 40,000円。支部（校区）社協を組織化している地区は1支部（校区）社協につき8,000円を加算
- (イ) 地区社協事業費補助金…地区の世帯数による
- (ウ) 地域福祉活動メニュー事業補助金…実績方式
- (エ) 共同募金交付金…前年度の共同募金の目標額の21%（実績が目標額に達しない場合は実績額）と目標超過額の90%

②研修会等

- (ア) 社協連絡協議会 全体会議
 - ・昨年度に続き、書面にて周知
- (イ) 地区社協リーダー研修会／補助金説明会
 - ・リーダー研修会
テーマ「地区社会福祉協議会の役割を考えよう！」
講師：ふくしと教育の実践研究所 SOLA 主宰 新崎国広 氏
開催日：令和5年10月16日
参加者数：20名
 - ・補助金説明会
各地区役員等を訪問して意見交換等実施
- (ウ) 地区社協ブロック別 会長会議
 - 1. 令和5年6月27日（北部）、令和5年6月28日（中部）、令和5年6月29日（南部）
内容：四社協事業報告について
全体事業（グラウンドゴルフ大会）について
ふれあいいいききサロン委託金の変更について
情報交換
 - 2. 令和6年1月24日（北部）、令和6年1月30日（中部）、令和6年1月30日（南部）
内容：令和6年度補助金等の変更（ふれあいいいききサロン委託金）について
地域福祉活動の状況について情報交換
- (エ) 全体事業（グラウンドゴルフ大会）の開催
令和6年3月2日：四日市ドームにて、24地区197名が参加
- (オ) 小地域福祉活動ホームページの開設
地区社会福祉協議会のホームページ「小地域活動応援サイト」の適宜更新

③福祉協力員等活動費補助事業

地域福祉活動の推進者である福祉協力員等のより一層の活動促進を図るため、運営費として20,000円、活動費として福祉協力員等1名につき年間3,000円（上限80,000円）を補助し、活動を支援した。

- ・実施地区（11地区）
共同、中央、羽津、富田、下野、三重、桜、神前、内部、大矢知、県
- ・地域ゼミナールの実施（11地区）
福祉協力員により各地域で福祉勉強会を実施した。

④地域福祉活動メニュー事業

平成8年度から地区社協に対する特定の活動に対する具体的な支援として「地域福祉活動メニュー

事業」を開始した。勉強会や講演会といった学びの場に対して助成する学習・啓発事業、住民同士の交流や世代間交流等を進める交流事業の助成を行った。新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げになったことにより、学習・啓発事業、交流事業ともに前年度から増加した。

●学習・啓発事業

地区	事業名	内容	参加人数
県	子育て講演会	演題「子育て講演会」	45
桜	市民出前講座	演題「60歳 70歳 人生の楽しみ方とは！」	49
	珈琲の入れ方	珈琲の専門的な教養の取得と実技指導	60
	バードウォッチング	矢合川周辺で鳥や自然の観察	42
	健康講座	演題「理学療法士に聞く 認知症予防講座～歳のせいだと思いはじめたあなたへ～」	45
富洲原	福祉講演会	演題「地域の人みんなで楽しく認知症予防」	41
八郷地区 連合	高齢者大学（八郷）	演題「終活～葬儀をする前に知っておくと良いこと～（エンディングノートの書き方）」	75
	介護のお話会	特養・デイサービス施設見学会及び体験会、介護施設の利用について、介護サービスの利用方法について（全2回）	82
八郷西	夏休みこども陶芸教室	陶芸について（全2回）	38
常磐	ミニ手話教室	手話の勉強会（全2回）	67
日永	環境事業	貝殻、木の実等を使ったフォトフレーム作り	21
塩浜	健康講座	認知症、介護予防、健康相談について	130
	健康講座	ノルディックウォーキングについて	27
	健康講座	高齢者の健康について	35
	人権・福祉講演会	演題「DVD鑑賞『おひとりさまを生きる』 “あなたは老後をどのように暮らしますか”」	50
	人権講座	人権啓発に関する落語会	50
河原田	寄せ植え教室	多肉植物の寄せ植え教室	26

年度	地区数	メニュー数
令和5	9	17
令和4	6	9

●交流事業

地区	事業名	内容	参加人数
共同	ふれあい広場	世代間交流イベント	800
	3世代交流グラウンドゴルフ大会	グラウンドゴルフ	100
同和	川あそび大会	川あそび	200
	大運動会	中央小学校で運動会	350
	3世代グラウンドゴルフ大会	グラウンドゴルフ	100
	もちつき大会	もちつき	250
中央	川あそび大会	川あそび	200
	大運動会	中央小学校で運動会	350
	3世代グラウンドゴルフ大会	グラウンドゴルフ	100
	もちつき大会	もちつき	250

港	ふれあい広場	音楽の鑑賞	400
	ひとり暮らしのつどい	音楽の鑑賞	80
浜田	ふれあいもちつき大会と体力測定 2023	もちつき、体力測定	400
	サバイバルキャンプ	育成会と協働でのキャンプ	60
県	ふれあい文化祭	趣味の作品展示と模擬店	700
	綱引き選手権大会	綱引き	107
桜	リフレッシュ健康体操	健康づくり体操	41
	さくらふれあいまつり	レクリエーション	106
川島	川島町北部第一親睦会	グラウンドゴルフ	30
羽津	ひとり暮らしの集い	椅子ヨガ、バンド演奏の鑑賞	70
富洲原	ふれあいグラウンドゴルフ大会	グラウンドゴルフ (全2回)	135
	オリジナルまが玉づくり	まが玉づくり教室	52
八郷地区連合	高齢者大学 (八郷西)	門松作り	43
	高齢者大学 (八郷)	門松作り	45
常磐	聴覚障害者との交流会	聴覚障害者を招いて交流	15
四郷	共栄作業所との交流会	共栄作業所利用者を招いて交流	61
高花平	こども園児とのふれあい会	こども園児と交流 (全2回)	140
日永	ひとり暮らし高齢者のつどい	ひとり暮らし高齢者の交流	283
塩浜	グラウンドゴルフ大会	グラウンドゴルフ	70
	高齢者お楽しみ大会	環境についての講座とビンゴゲーム	50
	お月見フェスタと抽選会	人権についての講演会	300
河原田	障害者ふれあいの集い	障害者との交流	16
	梅林ウォーキング大会	みんなで楽しく健康ウォーキング	60
楠	ふれあい農園	高齢者への配食サービスのための食材提供と農業体験・学童保育所の芋掘り体験 お手伝い	10

年度	地区数	メニュー数
令和5	18	34
令和4	15	20

⑤ふれあいいきいきサロン事業

●ふれあいいきいきサロン 33地区 (支部を含む) 645サロン

中ブロック

地区名	共同	同和	中央	港	浜田	三重中央
サロン数	5	7	3	11	5	9
回数	137	94	74	253	171	621
参加人数	2,109	970	886	2,832	1,674	8,086
地区名	三重北	三重西	県	桜	川島	神前
サロン数	17	17	33	16	29	33
回数	953	1,895	1,523	338	932	1,106
参加人数	7,021	18,725	18,894	4,181	14,465	15,179

北ブロック

地区名	橋北	海蔵	羽津	富洲原	富田	
サロン数	0	20	15	7	28	
回数		500	612	371	1,102	
参加人数		4,693	11,037	6,063	13,100	
地区名	大矢知	八郷	八郷西	下野	保々	大谷台
サロン数	29	26	14	20	7	33
回数	1,034	606	433	1,199	332	1,261
参加人数	12,832	8,555	4,208	12,503	3,834	12,332

南ブロック

地区名	常磐	四郷	高花平	笹川	小山田	水沢
サロン数	28	22	16	42	13	14
回数	1,520	773	1,381	1,286	398	494
参加人数	14,378	8,385	16,952	17,233	5,249	4,902
地区名	日永	内部	河原田	塩浜	楠	
サロン数	33	35	10	31	17	
回数	1,234	2,100	335	741	519	
参加人数	15,962	19,686	4,172	9,204	5,527	

全地区合計

年度	地区数	サロン数	回数	参加人数
令和5	33	645	25,895	301,621
令和4	32	626	23,208	264,812

●子育てサロン 9地区（支部を含む）12サロン

	地区名	回数	参加人数	サロン名	サロン数
1	共同	45	668	中部スマイル教室	1
2	富田	12	56	子育てサロンみどりの芝生	1
3	羽津	76	727	ぴよぴよ広場・おうちごはん・無料塾「ぐるにえ」	3
4	県	20	88	すくすくサロン「サルビア」	1
5	桜	18	145	のびっこ	1
6	小山田	24	271	子育てひろば	1
7	河原田	12	275	すくすくサロン	1
8	楠	163	1672	おもちゃ図書館・ひのとり	2
9	常磐	40	200	みんなで学べるパソコン教室	1

年度	地区数	サロン数
令和5	9	12
令和4	9	13

(2) 地域コミュニティの推進

地区民生委員児童委員協議会事業等への参画をとおして、各地域の社会資源の把握や福祉課題の整理を行った。

①生活支援コーディネーター

生活支援コーディネーターを4名配置し、地域包括ケアシステム実現に向けて福祉課題を把握し関係

機関とのネットワークの構築を進めた。また、住民主体サービス団体の組織化と持続可能な事業展開が図れるよう、スーパーバイズを行った。

各地区で開催される地域ケア会議では、見守りが必要なケースの情報共有や多様化する福祉課題について課題の整理を行い、包括的な支援が行えるよう関係機関が協働で課題解決できる仕組みづくりを実施した。

年度	関係機関への スーパーバイズ・連携件数	各種会議への 出席件数	調査業務件数	地域社会づくり 推進事業件数
令和5	1,543	455	3	21
令和4	1,569	340	2	37

②四日市市小地域福祉活動事業（拠点事業）

地域包括支援システム推進の地域福祉活動のモデルとして、市内3拠点の事業を実施した。

(ア) 北地域拠点「よってこ家」（富田地区）

協力員を中心に毎週金曜日に地域の交流拠点として「カフェサロン」とボランティアセンターと連携した取り組みであるボランティア講座「まなびや」を開催した。

サロンよってこ家実施状況

年度	開催日数	参加延べ人数	一日平均参加人数
令和5	44	1,537	34.9
令和4	50	1,739	34.8

(イ) 下野地域拠点事業

平成28年4月から下野・活き域ネットと協定を結び、住民参加型福祉サービスを協働実施。下野活き域ステーションを共同事務所として整備し、平成29年度4月から総合事業（訪問B、通所B）を実施。総合事業の先進モデル事業として視察の受け入れや講師派遣等を実施した。

(ウ) 神前地域拠点事業

神前地区（高角町矢合）の倉庫を無償で借り受け、地域後見サポート事業や日常生活自立支援事業等で支援を行っている生活困窮者に対して、電化製品等を提供する生活困窮家庭支援・リユース事業の拠点とした。

(エ) 坂部が丘拠点事業

坂部が丘市営住宅の余剰住宅の一部を無償で借り受け、自治会長、管理人、民生委員、気になる方を訪問し地域の状況の聞き取りを通じて高齢化が進む公営住宅における支援の在り方を調査研究しながら、住民と協働で地域福祉活動を実践する拠点とした。

- ・運営委員会 年2回実施
- ・定期訪問

開所日数	50
------	----

集いの場の取り組み

実施日	内容	参加人数
11月4日	カフェサロンお試し会	32
3月31日	カフェサロンお試し会	24

坂部が丘地区まなびや

実施日	内容	参加人数
9月20日	健康のために水を飲もう～からだと水の関係～	13
3月9日	薬の正しい飲み方について	9

③ふれあいいきいきサロン推進事業及び住民主体サービスの推進

新型コロナウイルス感染症拡大の中でふれあいいきいきサロン活動が実施できるように活動実態調査を行い、「小地域福祉活動の再開にむけた感染症拡大予防ガイドライン」の提示とREスタート応援パック（消毒液等の感染予防用品）の配布を行った。ふれあいいきいきサロン連絡会や住民主体サービス連絡会を開催する中で事業継続ができるようにコーディネートを行った。

(ア) ふれあいいきいきサロン連絡会の開催：32地区 41回実施

事業継続の情報提供や感染拡大予防に配慮した活動における新たな取り組みや工夫、課題の共有等、ふれあいいきいきサロン相互の意見交換を行った。

(イ) 住民主体サービス団体連絡会議の実施

実施日	内容	講師	参加人数
10月7日	ステップ四日市施設見学 事業内容説明 「サービスB活動時の利用者見守りポイントについて」	ステップ四日市 加藤 康太 氏 片山 和馬 氏 株式会社ヤマシタ 北川 侑輝 氏	25
1月28日	仲間とともに活動を豊かにするためのファシリテーション講座 ～話し合いのコツ～	皇學館大学 池山 淳 氏	35
3月16日	地域づくりは仲間づくりから ～住民主体サービスの本質を見つめ直しましょう～	椋山女学園大学 田村 禎章 氏	27

(ウ) 基準緩和サービス・住民主体サービス従事者研修会

実施日	内容	講師	参加人数
3月18日	介護保険・高齢者福祉制度と地域包括ケアシステム	市高齢福祉課 瀬古 一成 氏	サービスA団体 3団体5名 サービスB団体 15団体41名
	高齢者の身体（認知症）と介護予防	市高齢福祉課 中 猛則 氏	
	ボランティア活動の意義とボランティア保険	四社協 ボランティアセンター職員	
	信頼関係をつくるコミュニケーション	南地域包括支援センター 中尾 由佳里 氏	
	実践から学ぶ訪問型サービス	セントケア三重株式会社 武市 岳 氏	
	実践から学ぶ通所型サービス	NPO法人 元気な笑顔 橋本 禮次郎 氏 北地域包括支援センター 土田 仁美 氏	

④四日市市福祉教育大学

(ア) 四社協福祉ゼミナールの開催

講師：ふくしと教育の実践研究所 SOLA 主宰 新崎 国広 氏

場所：四日市市地場産業振興センターじばさん

実施日	内容	参加人数
9月18日	開校式「ボランティアをすすめていこう！」(ボランティアのつどいと共催)	16
10月16日	地区社会福祉協議会の役割を考えよう！	20
11月20日	小地域福祉活動(ふれあいいきいきサロン)をどう進めるか？	16
12月18日	福祉課題を支える新しいサポートの仕組みを考えよう！	15
1月22日	福市民のつどい「福市民のすすめ」	14

(イ) 四社協福祉ゼミナールオンデマンドの開催・・・受講修了生 14名

内容	講師
講座①「福市民のすすめ」	ふくしと教育の実践研究所 SOLA 主宰 新崎 国広 氏
講座②「ボランティアのすすめ」	市民社会コンサルタント 村上 徹也 氏
講座③「住民主体サービスの活動とは」	下野活き域ネット理事長 谷口 欽衛 氏

(ウ) 地域福祉ゼミナールの開催

福祉協力員等が組織化されている12地区で、地域の福祉課題の共有と解決策を見出すことを目的に座談会を開催した。

(エ) 専門ゼミナールの開催

実施日	内容	講師	参加人数
12月8日	身寄りのない方の支援について ～知多地域での取り組み事例から学ぶ～	日本福祉大学教授 藤森 克彦 氏	23
1月29日	身寄りのない方の支援につて ～医療現場での事例から学ぶ～	日本福祉大学准教授 林 祐介 氏	15
2月26日	適切な援助関係の構築の仕方について	AIDERS 代表 山崎 正徳 氏	10
3月21日	本人に寄り添った支援を行うために	四社協 成年後見サポートセンター職員	11
	判断能力・意思能力が低下した人の支援	四社協 成年後見サポートセンター職員	
	日常生活自立支援事業の概要	四社協 日常生活自立支援事業職員	

(オ) なるほど出前講座の開催

福祉に関する情報や制度についてわかりやすく情報発信したり、企業の協力を得て介護予防等の情報を知る機会として、出前講座を実施した。

【開催 37回 参加人数 895名 (令和4年度：18回 参加人数 445名)】

No	実施日	主催	内容	参加人数
1	5月20日	四日市大学	災害ボランティア活動・ 災害ボランティアセンター運営訓練	50
2	5月26日	四日市大学	ボランティアのすすめ	80

3	5月31日	神前地区社会福祉協議会	福祉協力員研修会	20
4	6月18日	桜地区社会福祉協議会	桜地区の高齢化の現状と地区社協について	30
5	6月20日	ユマニテク医療福祉大学校 介護福祉学科	Let's ボランティア	33
6	6月22日	三重地区社会福祉協議会	第1回福祉協力員研修会	30
7	6月24日	富田地区社会福祉協議会	災害ボランティアセンターについて	30
8	6月24日	波木が丘自治会	今、地域に求められる福祉活動とは	30
9	7月15日	県地区社会福祉協議会	県地区教育講演会〔オンライン〕	30
10	7月20日	保々地区 まちづくり構想策定委員会	支え合いのまちづくり勉強会	15
11	8月4日	市健康づくり課	ボランティア活動や心構え	30
12	8月21日	共同地区社会福祉協議会	お互い様の気持ちで助け合おう	23
13	8月22日	常磐地区 まちづくり構想推進委員会	市内の先駆的な助け合い活動について	10
14	9月7日	カフェサロンうつべ	平均寿命と健康寿命 (雪印ビーンスターク)	40
15	10月10日	出雲の森イベントサロン	介護予防の話	20
16	10月14日	四日市男女共同参画研究所	市内の地域福祉活動のいろいろ	20
17	10月17日	旭町街角くらぶ	高齢者の健康維持・管理について	20
18	11月13日	山田町 グラウンドゴルフクラブ	心身ともに健康でいるために (雪印ビーンスターク)	10
19	11月16日	神前地区社会福祉協議会	福祉について	20
20	12月1日	結いの会 楽	スマホ教室入門編 (ソフトバンク)	20
21	12月10日	県地区社会福祉協議会	在宅医療講演会〔オンライン〕	30
22	12月18日	障害者自立支援施設 あさけワークス	成年後見制度について	16
23	1月10日	きらめきサロン	スマホ教室入門編 (ソフトバンク)	20
24	1月17日	ポエム小浜	介護予防について	20
25	1月27日	市危機管理課	防災大学	30
26	2月5日	夢くらぶ	健康の話と血管年齢測定会 (明治安田生命)	20
27	2月7日	きらめきサロン	食に関する勉強会 (ライフロジサポート)	20
28	2月8日	夢くらぶ	スマホ教室入門編 (ソフトバンク)	15
29	2月14日	黒田町高齢者会	骨健康チェック測定会 (明治安田生命)	6
30	2月15日	夢くらぶ	健康の話と骨健康チェック (明治安田生命)	20
31	2月26日	すまいるサロン	栄養に関するお話 (ライフロジサポート)	15
32	2月29日	市人権擁護委員会	人権擁護委員研修会 「四日市市社会福祉協議会が進めている福祉教育・人権教育」	32
33	2月27日	市中地域包括支援センター	身寄りのない人の支援について	20
34	3月6日	きらめきサロン	スマホ教室 基本編 (ソフトバンク)	20

35	3月18日	すまいるサロン	骨健康チェック測定会 (明治安田生命)	15
36	3月19日	高砂元気クラブ	食に関する勉強会 (ライフロジサポート)	15
37	3月21日	四日市南プロバスクラブ	食に関する勉強会 (ライフロジサポート)	20

⑤社会福祉相談援助実習

●社会福祉士相談援助実習担当者会議を行い、社会福祉士を目指す学生の相談援助実習受け入れ体制の充実を図り、実習生を受け入れた。

●職員研修企画の実施

日時：令和6年2月26日 15:30～17:00

総合会館8階視聴覚室、又はZ o o mウェビナーを活用して各施設で研修

内容：「ケアする方を孤立させないために～ダブルケアの先進的な取り組みから～」

講師：一般社団法人ダブルケアサポート 代表理事 東 恵子 氏、理事 植木 美子 氏

⑥防災・災害支援事業

(ア) 災害ボランティアセンター推進事業

四日市市社会福祉協議会災害ボランティアセンター運営マニュアルに基づき、災害ボランティアセンター立ち上げ訓練及び、運営マニュアルの見直しと設置に向けた準備物の整備を行った。災害ボランティアセンタースーパーバイザー研修を受講している職員がBCPを検討するチームと災害ボランティアセンター訓練を検討するチームに分かれ、それぞれの訓練を企画した。

実施日	講座名	開催内容
6月18日	四日市大学防災講座	災害ボランティアセンター運営について
2月22日	第2回BCP訓練・緊急対策会議	安否確認訓練・震災時BCP訓練
2月23日	災害ボランティアセンター設置訓練	k i n t o n e活用訓練

(イ) 広域災害ボランティアセンター強化事業

三重県災害対応部会、ならびに近隣市町3市3町（四日市市、鈴鹿市、亀山市、川越町、朝日町、菰野町）が大規模災害時に協力体制が取れるように、運営マニュアルや様式の調整を行うとともに、それぞれの市町の特性に合わせた連携体制が取れるようにオンラインを活用して情報共有や訓練を行った。

実施日	内容
6月13日	三重県社協災害時広域連携協議会幹事会
8月16日	三泗鈴亀地区災害ボランティアセンター広域連携担当者会議
9月7日	三泗鈴亀地区災害ボランティアセンター広域連携担当者会議
11月6日	三重県社協災害時広域連携協議会幹事会
11月30日	三泗鈴亀地区災害ボランティアセンター広域連携担当者会議
12月20日	三泗鈴亀地区災害ボランティアセンター広域連携担当者会議
2月1日	三重県社協災害時広域連携協議会幹事会
2月16日	三泗鈴亀地区災害ボランティアセンター広域連携担当者会議
2月22日	三泗鈴亀地区災害ボランティアセンター広域連携訓練

(ウ) 災害ボランティアセンター地域アドバイザー養成講座

災害時要配慮者等の支援が必要な世帯と地域のつながりを確保できる地域の福祉のリーダーとして、発災時には地域の災害ボランティアセンター運営支援者となる人材を市の委託事業として養成した。養成者21名の方が災害ボランティアセンター地域アドバイザーとして登録いただいた。

日・場所	講義テーマ	講師	参加人数
8月26日 市総合会館	被災者に災害ボランティアをつなぐ「災害ボランティア地域アドバイザー」の役割	一般社団法人 FEEL Do 代表理事 栗原 英文 氏 倉敷市社会福祉協議会 水野 孝昭 氏	32
9月23日 楠町ゆりかもめ	大規模災害発生！災害ボランティアセンターの活動を体験してみよう！	一般社団法人 FEEL Do 代表理事 栗原 英文 氏	39
10月28日 市総合会館	いざという時に必要とされる、平常時の「災害ボランティア地域アドバイザー」の活動	一般社団法人 FEEL Do 代表理事 栗原 英文 氏 三重国際交流財団MIEF 上原ジャンカルロ 氏	26

(3) 包括的福祉総合相談窓口の設置

包括的な相談窓口として、関係機関につなぐプラットフォーム的な役割を担った。解決が難しい相談も含めて、関係機関の支援につなげるための「つなぎ支援」を行った。相談内容は多様化と多問題化しており、福祉以外の他職種な関係者との連携が求められている。既存の制度やサービスの隙間の課題について、関係機関と協力しながら新たな支援の構築を進めている。

●包括的な窓口相談

年度	新規相談件数
令和5	528
令和4	666

●つなぎ支援相談対応件数

年度	訪問	電話	来所	その他	合計
令和5	2,365	2,317	669	3,714	9,065
令和4	3,108	3,512	728	4,662	12,010

●支援実人数

年度	人数
令和5	732
令和4	775

①成年後見サポートセンター

(ア) 調査研究事業

●生活支援コーディネーターとの情報交換

制度の狭間や重層的な支援の必要性について生活支援コーディネーターとコミュニティソーシャルワーカー担当者によるケース検討と支援調整会議を行った。

ケース検討会議 40回

(イ) 権利擁護の啓発の機会の実施

福祉専門職、当事者組織、地域団体等から依頼を受け、権利擁護や成年後見制度の説明、成年後見サポートセンターの役割についての出前講座を行った。また、前年度以前の権利擁護講座受講生と日

常生活自立支援事業生活支援員を対象に、フォローアップ講座を開催した。

(ウ) 相談対応件数

年度	区分	訪問	電話	来所	代行等	合計
令和5	相談支援	173	387	58	574	1,192
	後見人支援	8	21	17	8	54
令和4	相談支援	167	340	61	425	993
	後見人支援	0	2	22	5	29

(エ) 三士会会議

四日市市を中心に活動する弁護士会、司法書士会、社会福祉士会の代表に集まっていたいただき情報交換を行った。専門職後見人を取り巻く課題の整理を行うとともに、専門職団体に所属し活動する後見人にアンケートを実施した。また親族後見人の支援における専門職の在り方について意見交換を実施した。

- 第1回三士会会議 令和5年 7月20日 弁護士1名、司法書士2名、社会福祉士2名
- 第2回三士会会議 令和5年12月13日 司法書士2名、社会福祉士2名

(オ) 親族後見人のつどい

親族後見人等を受任している方や関心のある方を対象に、親族の立場として行う後見業務の情報交換や専門職のミニ講座や座談会等を行った。

- 第1回親族後見人のつどい 令和5年10月22日
出席者：10名（親族後見人8名、司法書士1名、社会福祉士1名）
内 容：社会福祉士による成年後見制度ミニ講座
専門職と親族後見人の意見交換
- 第2回親族後見人のつどい 令和6年2月18日
出席者：8名（親族後見人5名、司法書士1名、社会福祉士2名）
内 容：社会福祉士による成年後見制度ミニ講座
専門職と親族後見人の意見交換

●法人後見受任

専門職後見人の選任が難しいケース等の法人後見人を受任した。課題を多く抱えるケースや後見人が不足した際のセーフティーネットとして、法人が後見人となり、市民と後見活動を協働できる仕組みの検討を進めた。

年度	件数
令和5	30（新規3、終了5）
令和4	28（新規5、終了2）

●法人後見アドバイザー会議の実施

法人後見受任のケースについて、専門的なアドバイスと監査的な役割を担っていただくことを目的に経験のある専門職後見人（社会福祉士・弁護士）をアドバイザーとして、検討を行った。

会議の実施 11回（対面10回、書面1回）

②自立生活困窮者対策支援事業（リユース事業）

生活困窮家庭に対する生活用品の貸与等を実施した。関係者から使用可能な不要物資の提供を受け、神前地区拠点倉庫として活用しながら必要な人に貸し出す仕組みで実施した。

生活困窮者対策支援事業として、協定を結んだ生活協同組合コープ三重から約1,313点の食料品

や生活用品をご寄贈いただき、地域後見サポート事業等の支援を行っている生活困窮家庭に提供し、生活の再建のきっかけをつくるとともに日常生活支援の指導に役立てた。

(ア) 生活協同組合生活困窮者対策支援事業

内容	おもな内訳	件数
カップ麺や米等の食材提供	お米 15 点、パックご飯 3 点、カップ麺 99 点、レトルト食品 50 点、飲料 356 点、その他 149 点	70

(イ) リユース事業

内容	おもな内訳	件数
生活物品	テレビ、冷蔵庫、電子レンジ、掃除機、洗濯機等	9

(ウ) 車いす貸出

内容	件数
車いすの貸出	171

③食品ロス削減にかかるマッチング事業（リユース事業）

まだ食べられるのに捨てられてしまう食品を福祉関係団体等に提供していく取り組みを、市生活環境課からの委託により実施した。民生委員児童委員定例会での案内や四社協ホームページ掲載等により事業周知を図り、随時寄贈を受け入れ、必要とする団体に食品の引き渡しを行った。

(ア) 寄贈・引き渡し等件数・重量

	件数	重量 (g)
寄贈	145	2,582,381
引き渡し	93	2,407,363
廃棄	-	23,173

(イ) 食品のマッチングに関する連絡協議会

食品の受け入れ・マッチング状況報告及び情報交換のため、連絡協議会に出席した。食支援活動団体、企業、市職員が出席し、食品のマッチングについて意見共有等を行った。

- 第1回 令和5年8月17日
- 第2回 令和6年1月29日

(ウ) フードドライブの実施（場所：坂部が丘市営住宅）

- 第1回 令和5年11月4日
- 第2回 令和6年3月31日

④福祉総合相談事業

関係機関との連携を図り相談事業の充実に努めた。

- ・開設場所…市総合会館2階 福祉総合相談室
- ・相談件数…87件（電話74件、来所13件）

相談事項	暮らし・住まい	家族	健康・医療	人権・法律	教育・福祉	その他
件数	39	12	27	4	55	23

※相談事項は重複

⑤四日市日常生活自立支援センター

県社協から日常生活自立支援事業を受託し、判断能力に不安があり、契約内容を一定程度理解できる高齢者や知的・精神障害者等を対象に福祉サービスの利用援助、日常的な金銭管理、書類等の預かり等の支援を行った。新規契約件数は53件。

所長1名、専門員7名、事務補助員2名、生活支援員46名体制で行政、民生委員児童委員や在宅介護支援センター等と連携を図り、事業を展開した。

また、生活支援員の資質向上を図るため、生活支援員研修会を開催した。

(ア) 相談件数…11,066件

相談対象別件数

	認知症高齢者	知的障害者	精神障害者	その他	合計
令和5	2,800	3,622	4,628	16	11,066
割合 (%)	25.3	32.7	41.8	0.2	100
令和4	2,837	2,576	4,593	54	10,060

※相談件数は、専門員が利用者や市民等から相談を受け支援を行った件数

(イ) 契約件数推移

年度	新規契約件数	契約解除件数	年度末契約件数
令和5	53	63	393
令和4	50	45	403

(ウ) 令和5年度末実績

a 生活支援員の派遣件数

週1回	隔週	月2回	月1回
167	71	53	102

b 利用料負担件数 (1回1,200円)

有料	有料 (一部減免)	無料
104	98	191

c 契約対象件数内訳

認知症高齢者	知的障害者	精神障害者	その他
126	82	175	10

d 世帯別延べ支援回数

生活保護	非課税	非課税 (有料)	課税	合計
5,864	2,605	1,459	566	10,494

※非課税 (有料) : 住民税非課税者で預貯金200万円以上の利用者

(エ) 生活支援員研修会の開催・参加

専門員・生活支援員の資質向上を図るため、成年後見サポートセンターと合同で生活支援員の研修会を実施した。

開催日：12月8日、1月29日、2月26日

内容：専門ゼミナールに参加

参加人数：17人

【ふれあいのまちづくり事業 まとめ】

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための行動制限が撤廃されたことを受け、地区社会福祉協議会を中心に事業の再開を呼びかけたが、すでに解散している活動団体もあり、行動制限前の水準に戻していくのは難しい状況となっている。その一方で、子ども食堂等の新しい事業を実施した地区もみられ、地域

福祉活動団体の役割や取り組み等について改めて考える機会となった。

小地域福祉活動の主な取り組みであるふれあいいきいきサロン活動は645団体まで活動数が伸びた。そのうちの27団体が新しく活動をスタートしたが、8団体が活動者、会員の高齢化を理由に活動を中止しており、活動者の高齢化については、取り組むべき課題の一つである。

生活支援コーディネーターを中心に地域包括ケアの充実に向けて福祉課題の整理を行うとともに、身寄りがない方への支援体制について整備を進めている。支援対象は判断能力が低下している方を中心とすることを関係機関に明確化していくことで、新規相談件数は令和4年度の660件から528件に減少した。一方で、成年後見サポートセンターにおける相談対応件数は993件から1,192件に増加しており、認知症等高齢者等で親族等の支援者が確保されていないケースは今後も増加していくと思われる。今年度も引き続き、入院、施設入所時に緊急対応等を行う支援者がいないケースの課題を解決するべく、入院入所サポート事業を実施し、地域包括ケアシステムの支援体制の構築をすすめた。このようなケースに対し、チーム支援による役割分担をすすめたことで、約3,000件の支援件数を減らすことができた。それでも年間の支援件数は9,065件となっており、十分な相談員が確保されていない中、生活支援コーディネーターやコミュニティソーシャルワーカーの負担は大きく、人員確保が必要であるとともに、市が実施する重層的支援体制整備事業やケアマネジャー等とのチーム支援を進めることで支援の形を確立していくことが必要となる。

住民主体サービス団体として訪問15団体、通所17団体が活動している。今後も市内全地区で住民主体サービスが実施されるように新規立ち上げと既存団体の支援をすすめていく。

四社協独自の生活困窮家庭の生活再建に向けての支援として、企業の協力のもとフードバンク（食材提供）やリユース事業（家電製品の貸与）等を行った。

各地区民生委員児童委員協議会定例会議に参画し、民生委員児童委員の活動に協力するとともに、各地区の社会資源や福祉課題の把握に努めた。引き続き、地域の福祉課題解決に向けて、地区社会福祉協議会、民生委員児童委員、在宅介護支援センター等と協働してコミュニティソーシャルワークを実践していく。

2. 福祉ボランティアのまちづくり事業

ボランティアセンターでは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための行動制限が撤廃されたことを受け、ボランティア活動の啓発や事業については従来の方法と対策の継続について確認しながら実施に努めた。ボランティア団体への状況確認アンケートも継続して行い、情報や学習機会の提供等事業に反映させる等、ボランティアの活動支援にも取り組んだ。また事業については、市民が気軽にボランティア活動に参加できるよう情報の発信や、機会の提供にも努めるとともに、将来を担う次世代への福祉学習やボランティア体験にも関係機関と連携しながら取り組んだ。

(1) 相談援助業務

① ボランティアに関する相談及びコーディネート業務

ボランティアに関する相談への対応や、ボランティアを必要としている人とボランティア活動を希望している人や活動中の人を実際の活動につなげるコーディネートを行った。

● ボランティアに関する相談・調整

相談・調整先	件数
市民、関係機関等	254

● コーディネート実績

年度	依頼件数	派遣件数	派遣人数	派遣団体数
令和5	99	75	119	33
令和4	72	56	106	10

(2) 情報収集と提供

① ボランティアニュース「ボランティアのたまご」の発行（月1回）

ボランティアに関する事業や情報を掲載し、毎月20日に発行した（発行部数約1,600部）。ボランティア団体や個人ボランティア、行政、一部企業等の各関係機関への送付や地域の掲示板への

貼付等により、ボランティア活動の周知に努めた。

②ボランティア団体会員募集一覧冊子の作成

会員募集を行うボランティアセンター登録団体の活動状況等の情報を掲載する冊子を作成した。

③ホームページの更新

四社協ホームページに、ボランティアセンター事業やボランティア募集等ボランティアに関する情報を掲載し、ボランティア活動やボランティアセンターの周知に努めた。

④フェイスブック、インスタグラムの活用

若い世代への情報発信ツールとしてフェイスブック、インスタグラムを活用した。

(3) ボランティアのきっかけづくり事業

①はじめてのボランティア説明会

これからボランティア活動を始めたいという人を対象に、ボランティア活動に関する基礎知識の習得と実際の活動へのつながりを目的とした説明会を開催した。ボランティア活動に関する基礎知識や心構えを伝え、活動の紹介を行った。開催日時は、より多くの人に参加してもらえるように、毎月3回、平日午前、平日夜間、休日午後とした。

月	開催日	参加人数	内容
4月	4日・11日・22日	5	<全体説明>
5月	9日・20日	3	①四社協&ボランティアセンター
6月	13日・20日・24日	6	の概要説明
7月	11日・18日・29日	3	②ボランティアについての学習
8月	1日・8日・26日	12	③市内ボランティア活動状況
9月	5日・12日・23日	6	④ボランティア活動保険の説明
10月		0	⑤ボランティア募集状況 他
11月	14日	1	<個人対応>
12月	5日・12日	5	①1対1で活動希望の聞き取り
1月	9日・27日	6	②活動先との調整
2月		0	③見学への同行
3月	5日・16日	5	④活動中のフォロー
年間	24日	52	

②サマーチャレンジぷち

高校生や大学生・専門学校生等を対象に、ボランティア活動の魅力を伝えるとともに、ボランティア活動のきっかけになる体験の機会を夏休み期間に提供し、学生との連携した活動につなげることを目的に開催した。

開催日	活動内容	受け入れ施設・団体	参加人数 (延べ数)
6月20日 7月3日 7月22日 8月11日	事前説明会 ・ボランティアを知ろう ・活動メニューの紹介	暁高等学校 ユマニテク福祉大学校	131
7月30日 8月6日	海岸をキレイにする活動に参加しよう (漂着ゴミの学習と海岸清掃)	四日市ウミガメ保存会	23
8月4日 8月16日 8月27日 (午前・午後)	障害者スポーツを楽しもう ・SSピンポン ・ボッチャ	三重県SSピンポン協会 ボッチャサークル コロコロ四日市	30
8月14日 8月21日 8月25日 8月28日	障害のある子どもたちと交流しよう (児童デイサービスでの交流)	障害者福祉センター	7

7月31日 8月8日 8月25日 8月26日 8月28日	高齢者とふれあおう ・ゆりかもめ ・みえ川村老健 ・よっかいち諧朋苑	ゆりかもめ みえ川村老健 よっかいち諧朋苑	12
7月24日 7月25日 7月26日 7月27日 7月28日 7月31日 8月2日 8月3日 8月5日 8月9日 8月10日 8月12日 8月16日 8月17日 8月18日 8月22日 8月23日 8月24日 8月30日	子どもたちと遊ぼう ・北部児童館 ・塩浜児童館 ・こどもの家 ・おもちゃ図書館 ・まなびや	北部児童館 塩浜児童館 こどもの家 おもちゃ図書館ボランティア 「よっちゃんグループ」	38

※各日活動後に振り返りを実施。参加者の感想や協力団体からのコメントをボランティアキャンペーンで活動の様子とともに展示・紹介

(4) 人育て（人材育成）事業

①地域福祉活動拠点でのボランティア講座

地域でボランティア活動等に関心のある人に、地域の活動につながるきっかけや、福祉に関する知識や情報を学ぶ機会を提供し、身近な地域で活動する人材の育成と、企業や団体との連携した活動をモデルとして実施する講座「ボランティアカフェまなびや」をサロンよってこ家、下野拠点、坂部が丘拠点で開催した。※日時に（拠点地域名）のないものはサロンよってこ家開催

開催日	開催内容	参加人数
4月25日	わたしと家族の「そうぞく」講座 ～「相続」が「争族」にならないために！～	9
5月30日	はじめてのスマホ体験 ～楽しみながら練習しましょう！～	11
6月27日	家庭でもできる食中毒予防 ～家族み～んな健康が一番～	9
7月25日	健康のために水を飲もう講座	8
9月20日(坂部)	～からだと水の関係～	8
8月18日(下野)	段ボール迷路 作って遊ぼう	24
8月22日	～移動児童館が来てくれるよ♪～	10
9月26日	備えて安心！ 在宅避難のススメ	11
10月24日	足の「つり」とはオサラバ講座 ～からだのちょっとしたお悩みスッキリ～	16
11月21日	簡単工作 ～クリスマスリースを作ろう～	12
12月19日	手打ちうどんに挑戦～カラダもココロもポカポカ～	5

1月23日	大切な人の命を救うために！	12
2月27日	足の「つり」とはオサラバ講座 ～からだのちょっとしたお悩みスッキリ Part2～	11
3月9日(坂部)	薬の正しい飲み方について	11
3月19日	健康は食事から ～健康のための大切な習慣～	8

②障害者スポーツボランティア講座

(ア) 第5回SSピンポンクスノキ杯

SSピンポンは、とこわか国体において四日市で実施できた数少ないデモンストレーション競技。レガシーとして様々な人が交流し、スポーツを楽しむ機会として、競技団体やスポーツ関係団体と協働で開催した。

開催日	開催場所	開催内容	参加人数
12月17日	市総合体育館多目的室	SSピンポンダブルス団体戦 16チームによるチーム戦で開催	120

(イ) ボッチャ交流大会

ボランティアキャンペーン期間に、四日市市スポーツ推進委員協議会の協力を得て開催した。障害の有無に関わらず子どもからシニアまで、市内外からたくさんのチームが参加。健康増進ブース等複数の企業の参加協力も得られた。

開催日	開催場所	開催内容	参加人数
2月24日	市総合体育館多目的室	ボッチャ交流大会 30チームによるチーム戦で開催	117

③福祉教育推進事業・福祉教育への支援

(ア) 地域福祉教育推進（講師派遣）事業〔13校 20講座〕

小・中・高等学校の児童・生徒対象に、福祉に関する知識や学びの機会に必要な講師派遣やプログラムの提案を、福祉教育を実践する学校と協議をしながら行った。講師の紹介や調整、依頼やその経費については四社協が担う事業として実施した。

学校名	内容	講師
大谷台小学校	お話とSSピンポン体験	視覚障害者
	学習の振り返り	視覚障害者
川島小学校	お話とSSピンポン体験	視覚障害者
	お話と手話体験	聴覚障害者
	車いすユーザーからのお話とボッチャ体験	肢体障害者
中部西小学校	お話とSSピンポン体験	視覚障害者
日永小学校	お話とSSピンポン体験	視覚障害者
	お話と手話体験	聴覚障害者
三重小学校	ボッチャ体験と車いすユーザーとの交流	肢体障害者
三重北小学校	お話とSSピンポン体験	視覚障害者
四郷小学校	ボッチャ体験と車いすユーザーとの交流	肢体障害者
	お話と手話体験	聴覚障害者
大池中学校	「福祉・障害」	四社協職員
	お話とSSピンポン体験	視覚障害者
桜中学校	車いすユーザーからのお話とボッチャ体験	肢体障害者
常磐中学校	「福祉・障害」	四社協職員
	お話とSSピンポン体験	視覚障害者

南中学校	お話とSSピンポン体験	視覚障害者
四日市メリノール学院高等学校	「ろう者と手話」お話と手話体験	聴覚障害者
四日市看護医療大学	お話「障害とともに暮らす」	在宅重度障害者

(イ) 福祉教育への支援：2校

地域福祉教育推進事業実施校以外の小学校・中学校・高等学校で、福祉教育に取り組んでいる学校等の相談に応じ、取り組み内容についての情報提供を行った。

(5) 活動支援（助成）事業

・ボランティア保険の加入促進等

ボランティアが安心して活動できるよう、ボランティア活動保険等の加入促進と手続き支援を行った。ボランティア活動保険については、掛金の一部補助（一律一名100円）を実施。

また、ボランティア活動を行う団体等が安心して活動できるようなボランティア行事用保険、福祉サービス総合補償、送迎サービス補償の窓口業務を行った。

ボランティア活動保険加入者 2,311名

ボランティア行事用保険加入件数 307件

福祉サービス総合補償加入件数 32団体、従事者延べ人数 951名

送迎サービス補償加入件数 27団体

(6) 協働事業

①四日市ボランティアキャンペーン

幅広い世代、様々な分野のボランティアや企業と連携し、ボランティア活動の魅力を発信するとともに、ボランティア団体と協働での活動体験や福祉施設での交流等、各種プログラムを開催するボランティアキャンペーン。3月4日「みんなで①よにボランティア」（キャッチフレーズ）を四日市市のボランティアの日とし、また3月4日～31日までをこのキャンペーン期間として、下記内容を計画し、実施した。開催に伴い、企業9社の協賛や協力を得た。

●はじめてのボランティア説明会

開催日	開催場所	開催内容	参加人数
3月5日 3月16日	市総合会館 市文化会館 展示棟	・ボランティアに関する基礎知識 ・ボランティアの心がまえ ・ボランティア募集や活動紹介等	5

●ボランティア団体活動展示

開催日	開催場所	開催内容	来場者数
3月15日～ 17日	市文化会館 展示棟	・ボランティア団体の活動紹介展示(20団体) ・ボランティア川柳の展示(投句:56句) ・フードドライブの開催 ・おもちゃ病院の開院(17日のみ) [協力:四日市おもちゃ病院]	169

●ボランティア体験活動メニュー

開催日	開催内容	参加人数
3月7日	SSピンポンを楽しもう [協力団体:エンジョイSSピンポンクラブ]	6
3月10日	ウォーキングしながら公園クリーン大作戦 [協力団体:NPO法人緑の会羽津]	6
3月15日	よく飛ぶ紙飛行機講座 [協力団体:シニアサークル「男の囲炉裏端」の会]	9
3月20日	障害者施設の利用者さんと交流しよう [協力施設:障害者支援施設清和苑]	6

3月23日	防災講座&炊き出し体験 〔協力団体：特定非営利活動法人みえ減災啓発支援ネット〕	5
-------	--	---

●ボランティアキャンペーン運営委員会の開催

開催日	参加者	開催内容	参加人数
11月8日 1月26日 3月27日	・ボランティア団体 (5団体) ・個人ボランティア	①四日市ボランティアキャンペーン企画 に関する事 ②PR活動(SNS利用)への参加	21

②ボランティアのつどい特別企画講座

様々な活動をしているボランティア団体や個人が、一堂に会し、現在や未来の活動を考えたり、情報交換したりする機会として「ボランティアのつどい」を開催した。

●Part I 聞いて語ってボランティアの未来 5年後、10年後も四日市でいきいきと

開催日	開催場所	開催内容	講師	参加人数
9月18日	あさけプラザ	ボランティアのすすめ 語ろう！ボランティアの未来	ふくしと教育の実践研究所 SOLA主宰 新崎 国広 氏	30

●Part II 聞いて語ってボランティアの未来

開催日	開催場所	開催内容	講師	参加人数
1月28日	市文化会館	仲間とともに活動を豊かにするためのファシリテーション講座～話し合いのコツ～	皇學館大学教育開発センター 准教授 池山 敦 氏	42

③コーディネートを考える会議

ボランティアセンターのコーディネート業務の向上と企画・運営の充実を図るために、ボランティア関係機関（送り出し機関、受け入れ機関、中間支援組織、学識経験者等）が集まり、情報の共有や意見交換を行った。

開催日	参加機関	開催内容	参加人数
7月5日	①ユマニテク医療福祉大学校 ②作業所 来夢 ③よっかいち諧朋苑 ④四日市ウミガメ保存会 ⑤障害者相談支援センター ソシオ ⑥ボランティアコーディネーター ⑦学識経験者	・ボランティア団体アンケート結果から ・今年度の事業について ・新型コロナウイルス感染症対応等情報交換	11
2月20日	①ユマニテク医療福祉大学校 ②よっかいち諧朋苑 ③四日市ウミガメ保存会 ④ボランティアコーディネーター ⑤学識経験者	・今年度事業の振り返りと次年度に向けて ・能登半島地震支援活動の情報交換	9

④学生〔高校生・大学生〕ボランティア連携事業

現在、つながりのある学校と今後も継続したつながりが保てるよう、活動等での連携に努めた。

学校名	活動内容
ユマニテク医療福祉大学校	①介護福祉学科1年生へのボランティア講座の開催 ②サマーチャレンジ等ボランティア活動への参加
皇學館大学 ボランティアルーム	①ボランティアルーム学生の定期訪問、情報交換 ②ボランティアルーム年間活動報告会への参加

暁高等学校	①サマーチャレンジへの参加 ②各種ボランティア活動への参加
四日市メリノール学院高等学校	インターアクト部「手話講座」への協力
県小学校、内部東小学校、海蔵小学校、 下野小学校、富洲原小学校、富田小学校、 保々小学校、楠中学校、桜中学校、 笹川中学校、南中学校	四日市ボランティアキャンペーンへの参加・協力

【福祉ボランティアのまちづくり事業 まとめ】

令和6年3月31日現在のボランティアセンターへのボランティア団体登録数は、157団体、5,003名、また個人登録数は126名。団体や個人の登録数には大きな変動はない。新型コロナウイルス感染症が5類に移行したとはいえ、活動や事業実施にあたり、少なからず影響が続いている状況があった。

ボランティアコーディネートについては、職員間の情報共有や対応を継続して進めている。行動制限がなくなり、活動の依頼は増えつつあるが、活動希望者についてはまだ様子見の状況が感じられた。今後は依頼も希望者も少しずつ増えていくと予想されるため、さらに双方の想いを確認しながらより良いコーディネートやフォローを心掛けていきたい。

事業としては、ボランティアキャンペーンやボランティアのつどい等、コロナ禍での実施内容や方法について検討しながら進めてきたことを、行動制限がなくなった状況で、どう戻していくか、どうリニューアルしていくか等検討しながら開催した。特にボランティアキャンペーンでは、運営委員には新たな学生の参画を得ることができるようになり、若いメンバーの視点や協力が継続的に得られている。今後もこうしたメンバーやボランティア活動者の力を借りながら、社会の状況も念頭に事業の再構築も図っていききたい。

身近な地域で活躍できるボランティアを増やすことを目的に開催している小地域福祉活動事業（拠点事業）での講座については、継続して開催している拠点以外でも数回開催することができた。今後も生活支援コーディネーターと連携・調整しながら、拠点による特性を考慮し、様々なメニューの実施や新たなメニューの開拓にもチャレンジしていきたい。

夏休みの期間に学生を対象にしたボランティア体験プログラムを実施するサマーチャレンジは、コロナが5類に移行したことを受け、参加者の増加を予想し、受け入れ先・メニューを増やし準備したが、杞憂に終わった。しかし、参加した学生から、サマーチャレンジでの体験で、自分の進路に確信が持てたという声もいただいております。今後もこうした機会を広く提供することで、自分の特性を知る機会や、ボランティア活動への関心を高める機会としていきたい。

事業実施の他、情報発信では毎月のボランティアニュースの発行やホームページの更新と併せ、SNSでの発信にも努めた。事業の参加や問い合わせにも効果が感じられ、継続していけるよう努めるとともに、効果的な発信についてもより研鑽を積んでいきたい。また、寄付や障害者スポーツ大会等への協力による企業の社会貢献をホームページで紹介するとともに、社会貢献に取り組む企業との関係を継続できるよう、ボランティアセンター事業を展開していきたい。併せて、今までの取り組みで培ったさまざまな関係団体、企業、学校等とのつながりに今後新しいつながりも増やせるよう事業を進め、社会情勢にも留意しながら取り組んでいきたい。

3. 福祉施設の管理運営

(1) 介護予防等拠点施設「ステップ四日市」

誰もが自分らしく生き生きと暮らせるための介護予防と認知症予防支援の拠点施設（令和5年6月1日開所）の管理を受託した。施設は介護予防推進機能として介護予防に関する情報発信、啓発イベントやリハビリ専門職による短期集中予防サービスと、認知症支援機能として認知症に関する情報発信、認知症のご本人やご家族の交流会、社会参加につながる活動、専門スタッフによる相談を実施しており、このような施設機能が円滑に運営されるように、施設管理を行った。

(2) 母子・父子福祉センター

ひとり親家庭及び寡婦の生活に関わる相談及び自立を支援するための情報提供や、技能習得講座及び交流事業を実施した。また、趣味を通じての生きがいやふれあいづくりを目的としてサークルを支援した。

- ・相談件数 4, 514件（令和4年度相談件数 3, 911件）

【技能習得講座・サークル実施状況】

講座・サークル名	回数	延べ利用者数
技能習得講座 ・パソコン	104	248
交流事業 ・親子デイキャンプ ・飾り巻き寿司教室	1 1	11 13
サークル ・書道 ・編み物 ・和裁	24 24 28	155 145 71
令和5年度合計	182	643
令和4年度合計	149	506

(3) おもちゃ図書館

障害の有無に関わらず、子どもたちが「おもちゃ」を通じて、情操や知的・身体的機能を高めてふれあうことや、おもちゃ図書館や移動おもちゃ図書館へ来館する親の子育て支援を目的とし、おもちゃ図書館ボランティア「よっちゃんグループ」の協力を得て運営を行った。

●おもちゃ図書館利用実績

	令和5年度	令和4年度
利用児童数	2,259	1,488
上記の内障害児数	31	17
利用保護者数	2,065	1,341
その他利用者数	79	53
利用者合計	4,403	2,872
年間開館日数	216	144
1日あたりの利用者数	20	20

●移動おもちゃ図書館（9回）

開催日	開催依頼団体	利用者数
5月10日	三重地区民生委員児童委員協議会	27
6月21日	塩浜子ども園子育て支援センター	37
7月26日	あがた保育園子育て支援センター	27
8月23日	下野中央保育園子育て支援センター	17

9月13日	神前地区民生委員児童委員協議会	58
12月13日	児童発達支援センターあけぼの学園	59
1月11日	橋北子ども園子育て支援センター	26
2月21日	笹川保育園子育て支援センター	47
3月13日	海蔵保育園子育て支援センター	25
	合計	323

●おもちゃ図書館まつり

開催日	開催場所	開催内容	来場者数	
11月16日	市文化会館 第4ホール	遊びのコーナー（玉入れ、魚釣り、ロディ、 手作り、乳児用おもちゃ）、手遊びうた	147	
			子ども	75
			大人	72

●おもちゃ図書館ボランティア研修会

開催日	開催場所	開催内容	講師	参加人数
2月26日	市総合会館 会議室	健康講座 タンパク質の重要性と乳 酸菌の魅力	雪印ビーンスターク 株式会社 栄養士 森 優子 氏	17

福祉支援課

1. 障害福祉支援室

(1) 障害者自立支援施設「共栄作業所」

就労継続支援B型事業所として、一般事業所に就労することが困難な利用者に対し、生産活動・その他の活動をとおしての仲間づくりや生活面での自立を目指して支援を行った。また、受注作業や自主製品作業に取り組むとともに、利用者の高齢化・障害の重度化が進行する中で、個々の能力や身体機能に見合った作業と生活の支援を行うことで、心身ともに充実した日々が送れるように努めた。

さらに、利用者が地域で充実した生活を送れるよう、保護者会（NPO法人）が、主体となって取り組んできたグループホーム「クローバーの家」、「しらとりホーム」、「第2クローバー」と連携して支援にあたった。

利用者数 23名（定員37名）

活動	内容
自主製品作業	共栄の織り作業
受注作業	廃電線剥離作業、封筒点字刻印作業、リサイクル解体作業、物流関連作業、農耕関連作業
生活支援	利用者自治会「わたしたちの会」の運営、利用者新聞「なかま」の発行、サークル活動 (リズムダンス、テレビ鑑賞、カラオケ、ドライブ、町に出よう)
社会体験	社会・事業所見学、共栄の織り展示会
運動・レクリエーション	散歩、余暇活動、体操、音楽鑑賞、ミニ運動会、ボランティア交流会、地域交流行事

- ・利用者の作業工賃を確保するため、「共栄の織り」製品や「織りの郷プロジェクト」の取り組みについて、展示会やインターネット販売サイトを活用しPRに努めた。
- ・地元自治会・社協・ボランティアとの連携を図り、ボランティア交流会行事等への参加を通し利用者との交流の場を設けた。
- ・地域に根ざした施設運営を図るため、地域住民、保護者代表等で組織する「施設サービス運営委員会」を設けた（年2回）。
- ・利用者の健康状況に合わせた昼食を提供し、昼の休憩時に心身のリフレッシュを図るため散歩を行った
- ・自主製品の販売促進のため、常設店舗として「じばさん」や「ばんこの里会館」、「あさけプラザ」で製品の展示販売を行った。
- ・毎月1回地震または火事の発生を想定し避難訓練を行い、災害時の行動・対応の確認及び危機管理意識の向上を図った。
- ・不審者対応訓練を年2回（10月、3月）行い、不測の際の防犯の備えとした。
- ・利用者へのサービスの質の向上を図るため、支援困難ケースについては課題解決に向け、定期的な会議の開催や、権利擁護に関する情報の提供を行った。
- ・虐待防止の取り組みとして、虐待防止委員会及び研修会を定期的に開催した。
- ・大規模施設修繕として、本館床材改修、調理室出入口ドア改修を行った。
- ・令和5年度は、243日開所し、延べ5,289名の利用があった。

(2) 障害者自立支援施設「たんぽぽ」

常時介護を必要とする重度の障害者に対して、利用者一人ひとりに応じた「個別支援計画」を作成し、排泄・食事等の介護や作業活動・文化活動の機会の提供のほか、身体機能や生活能力の向上のために必要な支援を行った。また、障害者の社会参加に重点を置き、地域住民との交流・社会体験の機会を設け、障害者福祉の増進を目指した。

さらに、利用者の障害の重度化と高齢化による機能低下に対応して、家族や関係機関との連携を深め地域で豊かな生活が実現していくための支援を実施した。

利用者数22名（定員35名）

活動	内容
作業活動	アルミ缶回収、缶つぶし、プルトップ外し、銅線はがし
自立訓練	身体機能訓練、理学療法(相談を含む)、日常生活動作訓練
社会体験	買物、グループ別外出、保育園交流、地域交流行事等
文化活動等	音楽療法、乗馬療法、アニマルセラピー、レクリエーション、貼り絵等の創作活動、季節行事活動、音楽活動、ピアノ鑑賞、本の朗読等
在宅支援	相談支援事業所・各種サービス機関等との連携 福祉制度・福祉サービス情報の提供等

- ・利用者の障害の重度化と高齢化に対応した健康管理と、必要な医療的ケアを行った。また、理学療法士等による機能訓練や歩行訓練に取り組み、身体機能の維持と在宅生活での家族の介護負担の軽減に努めた。
- ・利用者から発せられるサインや表情、視線等から意思を汲み取り、タブレットや絵カードの活用等、利用者の自己決定を尊重し、意欲を引き出すコミュニケーション支援の拡充に取り組んだ。
- ・新型コロナウイルス感染症対策として、行事の一部を中止し、外出を伴う活動の制限を行った。また、利用者及び職員の検温と体調管理、手洗い・手指消毒の励行、マスク・フェイスシールドの着用等の感染症対策を徹底して行った。
- ・アルミ缶回収を通して、地域住民、企業、保育園、小・中学校との交流を深め障害理解の促進に努めた。
- ・地域交流の取り組みとして、地域の住民を対象とした「たんぼぼ福祉講座」を開催し、共生社会の実現に向け、障害・施設の利用者ならびに啓発に努めた。
- ・地域に根ざした施設運営を図るため、地域住民、保護者代表、ボランティア代表等で組織する「施設サービス運営委員会」の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため書面にて（年2回）報告を行った。
- ・西日野福祉ゾーン合同防災会議・合同訓練・合同研修に参加した。また、災害ボランティアセンター設置訓練に参加し、災害時の役割について学んだ。
- ・危機管理の取り組みとして、利用者個々の健康管理カード・災害時緊急対応カードの年1回の更新と地震または火災を想定した避難訓練を年4回実施した。また、防犯対策として、職員に対して不審者対応マニュアルの周知と防犯訓練を行った。
- ・虐待防止の取り組みとして、虐待防止委員会及び研修会を定期的に開催した。また、セルフチェックリストを用いて日頃の支援を振り返るとともにそこで明らかになった課題に対しグループワークを行い支援の向上に努めた。
- ・日中一時支援事業については、新規利用者を受入れ、年間26回の利用があった。
- ・令和5年度は、241日開所し、(新型コロナウイルス感染症拡大のため、8月に2日間施設を閉所)延べ4,253名の利用があった。

(3) 障害者自立支援施設「あさけワークス」

就労や生産活動の機会の提供、一般就労に必要な知識や能力向上のために必要な訓練を行う施設として適切な運営に努めた。利用者の障害特性を把握したうえで個別支援計画を作成し、ひとり一人に応じたプログラムを提供した。さらに利用者の就労意欲を引き出し、利用者の能力に応じて就労移行支援事業等への利用を目指せるよう取り組んだ。

利用者数10名（定員20名）

活動	内容
受注作業	ビニールカバーの成形、ゴム製品バリ取り 食品トレーへのシール貼り、ウエス用衣類裁断作業等
自主作業	自主製品の作成、名刺作成、点字刻印作業等

リサイクル作業	アルミ缶回収・分別、銅線の紙はがし作業
社会体験	施設内研修、グループ別行動、外出体験、施設見学

- ・地域交流の一環として「夏まつり」を開催し、規模は縮小したものの約50名の地域の方々に参加していただき、施設及び障害者に対する理解を深める事ができた。
また、地域行事である「八郷ふれあいまつり」に参加し、地域住民との交流に努めた。
- ・八郷社会福祉協議会との共催事業「福祉の勉強会」を開催し、悪徳商法の手口と対処法についての学習の機会を設けるとともに、地域住民と施設利用者との交流を図った。
- ・施設利用者の障害の重度化・高齢化に対応した支援とともに、「親なき後」の生活課題等について、「成年後見制度についての講演会」を実施するなど、将来のことを親子で考える機会を設けた。
- ・施設利用者の「今知りたいこと」をテーマに、施設内研修「災害からいのちを守るために～自助・共助・公助」を開催した。研修内容の選定等を利用者自身が行い、自己選択・自己決定のスタンスを尊重した。
- ・ニッチ産業等の参入については、令和3年度から公共施設の清掃・維持管理として、四日市北警察署の清掃業務を行っており、その委託契約を継続した。
- ・施設も地域の一員であることを自覚するために、月1回程度、利用者・職員全員で朝明川の堤防沿いを中心に地域の清掃を行った。
- ・毎月1回地震または火事の発生を想定し、避難訓練を行い、災害時の行動・対応及び危機管理意識の向上を図った。
- ・障害者虐待防止や障害者差別解消法等の要点を施設全体で学習し、障害者の権利擁護についての意識向上を図った。
- ・令和5年度は、243日開所し、延べ1,907名の利用があった。

(4) 障害者福祉センター

障害のある人の社会参加と交流の促進を目的として、障害者デイサービス事業等を実施するとともに、併せて障害者福祉関係団体の支援や障害者福祉の啓発等を行った。

新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことから、徐々に通常のサービス提供へと戻し、ボランティアの受け入れを再開するとともに、訓練時間・頻度等利用者の期待に応えられるよう取り組んだ。事業の周知については、コロナ禍では積極的にできなかったが、ようやくいちごの会の紹介イベントを実施することができ、より多くの方の利用につながるよう取り組んだ。失語症者に関する事業として、前年度試行的に実施したiPad教室をデイサービス事業として実施した。

第4期の指定管理期間が5年度で終了するにあたり、次期指定管理者の選定を受け、次期の管理運営も引き続き行うこととなった。

事業の実施に際しては、状況に応じた対応をとるべく、速やかに市と協議を進め、市等の対応方針に則り、以下の事業を実施した。

①障害者デイサービス事業

(ア) 機能訓練

言語訓練では、主に脳血管障害の後遺症により、言語に障害のある人を対象に言語症状や社会参加の状態に合わせて個別及び集団による訓練を行った。感染対策の一部は継続しながらも、個別訓練時間を45分までに延ばし、火曜グループは9月から従来の時間とした。家族やかかわり合う人との会話がスムーズに行えるような工夫等訓練以外の場での会話につながるような支援も行った。金曜グループでは会話中心の活動とした。毎回テーマを決め、テーマに基づいた発表形式としたことで、全員が話題の主役となり、より言語機能に働きかける内容となった。

すぐに役立つインターネット(iPad)教室では、情報弱者といわれる失語症者に焦点を当て、インターネットの活用を目指し教室を実施した。インターネットになじみのない世代であったこともあり、インターネットとは何か、という部分の理解に時間がかかり、活用に至ったのは1名のみで

あったが、iPad 自体の操作においては失語症者でも可能であることがはっきりした。今後も引き続き事業を実施し、失語症者のICT活用を進めていきたい。

理学療法では、事故や疾病の後遺症等により、身体機能が低下した在宅の人を対象に機能訓練を実施した。身体状況に変化のある利用者については、特定相談支援事業所や医療機関と情報を共有することで、理学療法士から効果的なりハビリの提案を行った。新型コロナウイルス感染症の5類への移行に際し、消毒や換気は継続しつつも、回数を制限していた利用者については本人の希望を確認した上でコロナ禍以前の回数に戻すことができた。

(イ) 社会適応訓練

歩行訓練では、白杖による単独歩行を目指すだけでなく、同行援護（ガイドヘルプ）のサービス利用に向けて、生活上の移動面の自立支援を行った。令和2年度からNPO法人アイパートナーへ訓練委託をし、白杖の操作訓練やガイドヘルプを受ける技術の習得、単独で安全に移動するための歩行ルート選定等を目的とした訓練を提供した。歩行訓練士の専門性を活かし、本人の見え方や環境に合わせた用具の選定や日常生活上の相談を受けることができた。

主に、中途視覚障害者を対象に、点字という文字を獲得することにより自分自身で生活に必要な情報を得られるように点字教室を開催した。今年度は交流の時間に利用者が日常生活で関心のあるテーマを取り上げ情報交換を行った。日常生活用具や視覚障害者向けスマートフォンアプリを生活に取り入れている当事者から実際の使用感や活用方法を聞き、体験することで日常生活用具の取得や情報取得方法の選択肢を広げる機会となった。また今年度は住宅火災の危険性や防火のために取るべき行動について市消防本部予防保安課の出前講座を依頼した。事前に利用者と防火対策で実践している事や困り事・疑問等の意見交換を行い、その解決策の共有や情報交換の場となった。

(ウ) 創作的活動【お茶で楽しむ時間教室】

創作的活動を通して生活の中に潤いをもたらすとともに、障害種別を越えた仲間づくりを目的に開催した。今年度はお茶をテーマに、お茶の淹れ方・日常生活での取り入れ方等を茶匠から学ぶ教室を開催した。慣れ親しんでいるお茶を介することで自然と話も弾み、お茶に関する日頃の疑問の解消や仲間同士の交流につながった。また、お茶を淹れ、待つ時間の間も含めたお茶の魅力を参加者全員で共有できる機会となった。

●障害者デイサービス事業（成人）実施状況

事業名		契約者数	回数	延べ利用者数	
1	機能訓練	言語訓練	7	214	214
		社会適応訓練Ⅰ・Ⅱ	5	36	76
		終了者フォロー等		109	109
		iPad 教室	2	6	12
		理学療法	24	370	370
2	社会適応訓練	点字教室 (視覚障害者)	8	20	105
		歩行訓練 (視覚障害者)	25	140	140
		相談等		9	9
3	創作的活動	お茶で楽しむ時間教室	7	10	28
令和5年度 合計		78	914	1,063	
令和4年度 合計		72	869	1,073	

(エ) 障害児デイサービス事業

18歳以下の児童を対象に、長期休暇中に活動する場を提供するとともに、保護者のレスパイト（休息）等を目的として実施した。

新型コロナウイルス感染症拡大の状況を確認しながらも5類に移行したことを受け、1回の利用者数を増やしたり、ボランティアの受け入れを再開したりと従来の形態に戻しつつ実施した。集団活動の協調性を意識しながら、利用者一人ひとりのペースに合わせた活動を心掛け、自律と自主性を育んだ。また、長期休暇中の保護者のレスパイト（休息）先としての役割を担うことができた。

●実施回数及び年代別利用者数（利用契約者数18名）

回数	小学生	中学生	高校生	合計
8	10	9	4	23

②失語症会話パートナーとの交流会

失語症者が失語症会話パートナーを利用して、会話を楽しむ場を提供した。感染症対策のためのアクリル板を外し、会話時間を従来の時間に戻したことで、言語外の状況が伝わりやすくなり、会話が豊かになったことを実感した。参加者が減少していることから、失語症への理解を広めるために、3月に「いちごの会参加者の声」として、周知イベントを開催した。中地域包括支援センターを通じて在宅介護支援センター参加の会議で呼びかけ、失語症者の支援者に交流会の見学や利用者の想いを聴いていただき、活動の周知を行った。

●開催回数 22回

●参加人数 失語症者 延べ94名、失語症会話パートナー 延べ99名

③障害者相談業務

障害者の自立と社会参加を促進するため、障害者の抱えている課題の解決に向けて言語聴覚士、理学療法士、歩行訓練士等経験豊かな専門職員が相談にあたりるとともに、より専門的な相談支援機関への紹介等を行った。障害者自立生活支援センターかがやきとの協働により、デイサービス事業の部分的な支援だけでなく、生活全般にかかる支援が可能となった。

④障害者福祉関係団体の支援

各団体の活動拠点として貸館や、備品の貸出を行った。利用者アンケートやセンター連絡会にて意見を聴取し、より快適な活動環境の整備に努めた。

登録団体：四日市市身体障害者団体連合会（6団体）、心身障害者団体連絡協議会（2団体）、障害児者関係団体（27団体）、創作的活動自主サークル（5サークル）、ボランティア団体（12団体）

⑤障害者福祉に関する啓発・情報提供

(ア) 社協だより「かけはし」掲載

社協だより「かけはし」の『障害者福祉センターだよりWITH』の常設コーナーで3回、市民向けに合理的配慮や障害者福祉講座の案内等を広報した。

(イ) 障害者福祉講座の開催

障害のある人の芸術作品やその制作の様子を紹介し、作品に込められた思い、作者像を知ってもらうことで、芸術という視点から障害者理解を深めてもらう目的で実施した。講師が持参した作品（絵画）のパワーもあり、障害のあるなしではなく、個性として、芸術として理解され、「ひと」として対等な関係を築けるものであることを理解してもらった。

開催日	場所	内容	講師	参加人数
11月23日	市総合会館	「ひとの可能性としての芸術」	NPO法人希望の園 理事長 村林 真哉 氏	18

(ウ) 出前講座の開催

障害者が地域で安心して暮らせるよう地域の障害者に関する理解の促進を図るため出前講座を開催した。地域福祉課との連携で民生委員児童委員協議会からの依頼をいただき、希望に応じた企画、講師の調整を行った。質疑応答では活発な意見交換が行われ、講演内容をより深く理解していただいたと同時に主催者としても地域の実状を知る機会となった。

開催日	依頼者	場所	内容	講師	参加人数
6月17日	南部地域民生委員・児童委員連絡会	楠福社会館 1Fホール	「自閉症スペクトラム・発達障害について」	三重県自閉症協会 四日市ブロック ペアレントメンター 藤井 滋子 氏	137

(5) 障害者自立生活支援センター「かがやき」

障害のある人が地域で自分らしい、心豊かな生活が送れるよう幅広い支援に努めた。抱える課題が単に福祉サービスの利用では解決できない相談も多く、法人内の支援機関を含む関係機関との連携や長期にわたる調整に努めた。訪問支援を再開し、生活環境や本人の状況を直接確認できることで、必要な支援の提案やつなぎをスムーズに行うことができた。

①市町障害者相談支援事業

●相談業務

- ・相談者数（実人数） 181名（令和4年度 142名）
- ・相談件数 7,525件（令和4年度 5,275件）

●自立支援協議会生活支援部会の運営

四日市障害保健福祉圏域自立支援協議会の専門部会である生活支援部会において、地域課題の抽出と解決に向けた協議を行った。部会では災害時に孤立しない地域づくりとして、個別避難計画作成の進捗状況の確認や、二次避難所の状況等を確認した。また障害福祉サービス事業所連絡会において、虐待防止の一環として職員のメンタルヘルスについての研修会を実施した。

生活支援部会：4回（川越町役場）

準備委員会：4回（ZOOMミーティング）

連絡会：居住系サービス事業所連絡会関連会議 4回（三重県四日市庁舎）

居宅介護事業所連絡会関連会議 1回（ZOOMミーティング）

通所事業所連絡会関連会議 8回（三重県四日市庁舎）

GH連絡会関連会議 7回（三重県四日市庁舎ほか）

②特定相談支援事業

障害者福祉サービス等を申請した障害者について、サービス等の利用計画の作成及び利用計画のモニタリングを行い、障害者の抱える課題の解決や適切なサービス利用に向けて、よりきめ細かく支援をした。

●計画支援実績

年度	契約者数	新規計画 件数	モニタリング 件数	更新・変更計画 件数
令和5	116	18	355	119
令和4	115	4	324	135

(6) 視覚障害者福祉センター

視覚障害者の自立と社会参加の促進、障害者団体活動の場の提供を行った。

市内在住の視覚障害者を対象に、はり・きゅう・マッサージの技術向上を目的とした三療学術講習会、防犯及び交通安全を目的とした安全安心講習会、災害ボランティアセンターの役割を学ぶことなどを目的とした防災講習会を開催した。

また、視覚障害者への情報提供として、市の公文書や障害者団体会報等の点訳業務130件（令和4年度：144件）を行った。

開催日	講習会名・内容	講師	参加人数
8月17日	安全安心講習会 防犯について：特殊詐欺発生状況等 交通安全について：発生状況等	四日市南警察署署員	11
9月14日	防災講習会 災害ボランティアセンターを学ぶ	地域福祉課職員	10
2月8日	三療学術講習会 「簡単にできる脊柱矯正」	三重県鍼灸マッサージ師会代表理事 伊勢指圧治療院院長 島谷 宏 氏	7

(7) 障害者就業・生活支援センター「プラウ」

障害のある人が一人ひとりの働く能力や個性を活かし、生きがいと働きがいのある生活が送れるよう、雇用、保健、福祉、教育等の地域の関係機関との連携の下、就業面及び生活面における一体的な支援と障害のある人や企業等に対する就職後の継続的な支援を行った。

①相談業務

●登録状況（人数）

年度	身体障害	知的障害	精神障害	その他	合計
令和5	78	370	339	46	833
令和4	79	380	358	40	857

●ツール別延べ相談件数

年度	来所	電話 文書メール	家庭・ 入所施設 訪問	職場訪問	その他	合計
令和5	764	2,743	42	1,096	298	4,943
令和4	775	2,331	47	1,053	185	4,391

●相談内容別延べ相談件数

	身体障害	知的障害	精神障害	その他	合計
就職に関する相談	143	556	633	144	1,476
職場定着に係る相談	148	1327	861	116	2,452
日常生活に係る相談	21	193	108	13	335
就業と生活の両方にわたる相談	14	356	281	29	680
令和5年度 合計	326	2,432	1,883	302	4,943
令和4年度 合計	358	2,081	1,835	117	4,391

●就職した障害者の人数

年度	身体障害	知的障害	精神障害	その他	合計
令和5	10	31	28	5	74
令和4	5	34	24	5	68

②関係機関との連携

(ア) 自立支援協議会雇用部会の運営

四日市障害保健福祉圏域自立支援協議会の専門部会である雇用部会において、各関係機関とのネットワークの構築と障害者の雇用に関わる地域課題の共有と解決に向けた協議、地域啓発に取

り組んだ。

(参加機関) 三重障害者職業センター、三重県雇用対策課、北勢福祉事務所、四日市公共職業安定所、一市三町障害福祉課、市商業労政課、学校関係、就労移行支援事業所、障害者相談支援事業所、当事者団体等23機関

雇用部会 : 4回
雇用部会準備会 : 4回
企業開拓ワーキンググループ : 5回
就労継続支援A型事業所連絡会 : 3回

(イ) 障害者雇用サポートフェア (市商業労政課・四日市公共職業安定所と共催)

障害者雇用促進と職場定着を目的に、市内事業所の方を対象に障害者雇用実績のある企業見学会と支援機関の紹介等を行う障害者雇用促進のイベント開催への協力を行った。

日時：令和5年10月6日 9:00～15:30

内容：富士電機フロンティアの取り組み紹介と見学、トークセッション、マッチングサポート
参加企業：14社15名

③企業向け研修会 (就労・定着支援)

郵便局で雇用されている障害者の障害特性や障害理解を深めてもらう勉強会をそれぞれの郵便局で実施した。

講師：三重県自閉症・発達障害支援センターあさけ相談支援員 松本 知子 氏

回	開催日	場所	参加人数
第1回	10月27日	四日市郵便局	2
第2回	11月9日	桑名郵便局	5
第3回	11月15日	四日市西郵便局	4

④職場定着促進 (職場定着研修会等)

在職中の障害者を対象にグループワークや勉強会を開催し、職場定着の促進を目指した。

回	開催日	内容	参加人数
第1回	7月1日	ふれあいの集い (療育手帳所持者)	27
第2回	9月16日	ふれあいの集い (精神保健福祉手帳所持者)	19
第3回	1月20日	ふれあいの集い (身体障害者手帳・精神保健福祉手帳所持者)	15

⑤ピアサポート活動

就労を目指す障害者を対象に、障害のある当事者を講師とした交流会を開催。就労移行支援事業所を利用して一般就労した方からの話と就労移行支援事業所からその役割についての説明を聞いた。

開催日：令和5年8月26日

参加人数：19名 (本人とその家族)

(8) 障害者就労支援事業ワークセンター

就労を希望する障害者を対象に、市役所等において、就労に向けた職場訓練を行い、就労に対する意識づくりを高め、次のステップへの土台作りを行った。

今年度より地域活動支援センター事業として、就労に向けた職業訓練終了者に対して、就労についての相談支援を行った。

①職場訓練の状況

●延べ人数と訓練日数

年度		身体障害	知的障害	精神障害	合計
令和5	延べ人数	1	1	4	6
	訓練日数	40	37	165	242
令和4	延べ人数	2	4	17	23
	訓練日数	32	65	268	365

●職場訓練後の状況

一般就労2名、就労継続支援A型事業所1名、就労移行支援事業所1名、
就労継続支援B型事業所1名、求職中1名

●訓練場所等の状況

「ワークセンター内」から「市役所庁舎内各課事務室」までの作業場所や、「ワークセンター職員」から「市役所職員」までの訓練に関わるスタッフ等、ステップアップを意識しながら取り組んだ。

年度	ワークセンター内回数	市役所執務室外(※)回数	左記のうち市職員による回数	市役所庁舎内各課事務室回数	合計
令和5	230	3	8	1	242
令和4	332	25	17	8	382

(※) 市役所庁舎内会議室・印刷室・集配室、市総合会館内研修室

②地域活動支援センター事業（訓練機会の提供と就労についての相談支援）

●利用人数と件数

年度		身体障害	知的障害	精神障害	合計
令和5	利用人数	2	4	6	12
	件数	50	85	178	313

●支援内容と件数

福祉サービス利用	障害や病状の理解	健康・医療	不安解消・情緒安定	家族関係・人間関係	家計・経済	就労	合計
2	6	23	47	1	1	312	392

件数は重複

福祉支援課

2. 高齢福祉支援室

(1) 中地域包括支援センター

①包括的支援事業

(ア) 総合相談支援業務及び権利擁護業務

本人、家族、近隣の住民、地域のネットワーク等を通じた様々な相談を受け、管内の在宅介護支援センターと連携し、相談内容に即したサービスや制度に関する情報を提供しながら対象者への個別支援を行った。また、高齢者の権利擁護の観点から支援が必要な方については、四日市日常生活自立支援センター等の関連機関と連携し対応を行った。

<令和5年度相談件数>

	本人	家族	その他	合計
来所	18	45	180	243
訪問	6,010	127	89	6,226
電話	131	262	687	1,080
合計	6,159	434	956	7,549

上記のうち、認知症（疑いを含む）に関する相談件数 年間1,857件

高齢者虐待に関する相談件数 年間34件

<令和4年度相談件数>

	本人	家族	その他	合計
来所	25	60	159	244
訪問	5,829	168	75	6,072
電話	154	279	694	1,127
合計	6,008	507	928	7,443

上記のうち、認知症（疑いを含む）に関する相談件数 年間1,739件

高齢者虐待に関する相談件数 年間43件

②包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

会議や研修会等については、オンラインでの開催が主流だったが、対面開催も徐々に増えた。

(ア) 在宅介護支援センター中ブロック会議

管内の在宅介護支援センターと地域包括支援センター、また管内の在宅介護支援センター同士の連携・情報交換を目的に開催した。(年3回)

(イ) 介護サービス事業者との連携

市介護保険サービス事業者連絡会の企画・運営等に参画し、介護支援専門員や、他の介護サービス事業者との連携を図り、質の高いサービスの提供を図るための研修会や情報交換を行った。

(介護保険サービス事業者連絡会への参加・年10回)

(ウ) 中地域医療・介護ネットワーク会議の開催

医療と介護の「顔の見える関係づくり」による円滑な連携を推進するため、医師会、歯科医師会、薬剤師会、訪問看護ステーション、訪問リハビリ事業所、病院の地域連携室など医療分野の関係者と福祉・介護分野の関係者が一堂に会する会議をオンラインと対面で開催し、症例検討、グループワーク等を実施した。(全体会 年4回、世話人会 年5回)

(エ) 認知症高齢者等の地域支援体制づくり

認知症地域支援推進員が中心となり、認知症高齢者を支えるための基盤づくりとして、地域住民や企業・団体を対象にした認知症サポーター養成講座・フォローアップ講座等の開催、認知症カフェ開

催支援及び地域における認知症に対する理解の促進のための事業の調整及び協力を行った。
(年65回)

(オ) 認知症初期集中支援の実施

認知症初期集中支援チーム員が中心となり、認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、認知症の人やその家族に早期に関わり、早期診断・早期対応に向けた支援を行った。(年29件)

(カ) 地域包括支援センター連絡会への参加

包括的支援事業の実施状況や介護予防事業の進捗状況の報告及び情報交換のために、市が開催する連絡会に参加した。(年6回)

(キ) 介護支援専門員に対する支援

随時地域の介護支援専門員からの個別相談に応じ、支援困難事例への助言やサービス担当者会議の開催支援等を行った。(年266回)

(ク) 自立支援型地域ケア会議の開催

専門職間のネットワーク構築や介護支援専門員のスキルアップ、地域課題の発見・把握等を目的として会議を開催した。(年4回)

(ケ) 個別地域ケア会議の開催

在宅介護支援センター・生活支援コーディネーター・民生委員等の関係者ととも、個別ケースの検討を通じて、地域課題の抽出・課題解決方法についての協議を行った。(年9回)

(コ) 医療・介護連携地域ケア会議の開催

中地域医療・介護ネットワーク会議世話会に併せて開催。在宅医療・介護連携支援センターつなぐとも連携を図り、医療・介護の連携における課題の抽出等を行った。(年5回)

(サ) 地区地域ケア会議への参加

在宅介護支援センター運営協議会や地域ケアネットワーク会議を通じて、または在宅介護支援センターが独自に地域の介護支援専門員や民生委員等を招集して会議を開催する等、管内の在宅介護支援センターが主催する会議に参加し、地域課題の抽出・課題解決方法を検討した。(年16回)

(シ) 地域密着型サービス事業所運営推進会議等への参加

事業所による利用者の抱え込みを防止するとともに、地域の連携が確保され、かつ地域に開かれたサービスとすることでサービスの質の確保を図ることを目的として開催される運営推進会議等に参加した。(年57回)

(ス) 中地域包括支援センター職場内研修の実施

職員の資質向上を目的に「支援者が知っておきたいお金に関する基礎知識」「保護課の連携体制」「職場のメンタルヘルス」「ケアマネジメントにおけるモニタリング・評価」についての研修を行った。(年4回)

③要支援者ケアプラン及び総合事業ケアマネジメント

要介護認定で要支援1及び要支援2と認定された方と基本チェックリストで事業対象者と認定された方に対して、自立に向けた目標を明確にした介護予防プランを作成し支援を行った。

<介護予防プラン延べ件数>

年度	居宅サービス計画(ケアプラン)作成件数	内委託件数	
令和5	介護予防プラン	10,600	4,066
	ケアマネジメントA	5,424	1,580
	ケアマネジメントB	783	119
	ケアマネジメントC	62	46
令和4	介護予防プラン	10,187	3,811
	ケアマネジメントA	5,528	1,617

	ケアマネジメントB	757	80
	ケアマネジメントC	38	34

④地域支援事業における介護予防事業

・地域づくりによる介護予防推進事業

地域での住民主体の通いの場の育成、介護予防の取り組み支援を行う一環として、介護予防推進員が中心となり、「いきいき百歳体操」の周知、活動支援を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、通いの場の新規立ち上げ等の取り組みができなかった。既存の通いの場に対し、電話による状況確認、相談対応、また再開に向けた支援等を行い、外出や交流の機会減少によるフレイル予防を図った。「地域で元気アップ！住民説明会」（年3回）、「いきいき百歳体操」活動立ち上げ集中支援（年2ヶ所）、自主活動継続支援「介護予防講座」（年71回）を実施した。

⑤参加研修等

三重県介護支援専門員更新研修、全国地域包括・在宅介護支援センター研修会、介護予防ケアマネジメント研修、ケアマネジャー向け研修会、ひきこもり支援者研修、アドバンスケアプランニング（人生会議）、地域生活支援における多機関多職種連携、若年性認知症支援者、認知症カフェセミナー、認知症初期集中支援チーム員研修、認知症地域支援推進員現任者研修、認知症多職種連携、認知症対応力向上、認知症地域支援体制推進セミナー、災害時こころのケア研修、ケアマネジャー×在宅主治医つながる意見交換会、相談援助職事例検討会、日本介護支援専門員協会研修会、三重県介護支援専門員協会研修会、精神保健福祉訪問支援者研修会、地域包括ケア研修（8050問題）等

(2) 訪問介護事業所

在宅において、日常生活に支障のある高齢者、障害者に対して身体介護や生活援助のサービスを行い安心して在宅生活が送れるよう、また自立支援を目的としたサービスを実施した。

①介護保険訪問介護サービス

・訪問介護事業（総合事業・訪問型サービスを含む）の実施

●介護保険・訪問介護サービス介護度別延べ利用者数

年度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
令和5	211	29	16	17	24	297
令和4	209	42	22	13	45	331

●総合事業・訪問型サービス区分別延べ利用者数

年度	要支援1	要支援2	事業対象者	合計
令和5	239	234	110	583
令和4	225	275	113	613

●介護保険・訪問介護サービス内容別延べ利用回数

年度	生活援助	身体介護	身体生活	合計
令和5	1,239	1,165	564	2,968
令和4	1,085	2,347	745	4,177

●総合事業・訪問型サービス延べ利用回数

年度	総合事業
令和5	3,264
令和4	3,571

②障害福祉サービス

- ・居宅介護事業の実施

●居宅介護サービス延べ利用者数

年度	身体障害	知的障害	精神障害	合計
令和5	239	68	160	467
令和4	260	83	174	517

●居宅介護サービス内容別延べ利用回数

年度	家事援助	身体介護	合計
令和5	1,715	3,459	5,174
令和4	1,932	4,196	6,128

(3) 通所介護事業所「ゆりかもめ」

- ・「利用者の自立支援」「利用者による選択（自己決定）」「利用者本位」を基本理念に、安全・安心で信頼されるサービスを目指し、食事の提供、入浴、送迎、生活に関する相談・助言、健康状態の確認、その他利用者に必要な日常生活上の支援、並びに機能訓練を提供した。
- ・延べ利用者数6,209名、一日平均21.2名となった。事業対象者、要支援1・2の延べ利用者数が全体の23.8%、要介護1の延べ利用者数が全体の40.9%を占めた。

●月別利用者数及び営業日数（介護保険事業・介護予防事業・障害者事業の利用者総数）

令和5年度	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	年間合計
	実利用者数	62	64	67	69	67	61	実利用者数 767名 延べ利用者数 6,209名 営業日数 293日
	延べ利用者数	508	516	553	556	536	510	
	営業日数	24	24	26	25	26	24	
	月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
	実利用者数	64	64	63	63	59	64	
	延べ利用者数	547	497	539	475	447	525	
	営業日数	25	24	24	23	23	25	
令和4年度	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
	実利用者数	78	76	75	73	68	67	実利用者数 834名 延べ利用者数 6,930名 営業日数 293日
	延べ利用者数	687	628	682	652	643	562	
	営業日数	25	23	26	25	26	24	
	月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
	実利用者数	69	66	68	66	62	66	
	延べ利用者数	583	529	515	434	447	568	
	営業日数	25	24	24	23	22	26	

●介護予防通所介護事業 区分別延べ利用者数

年度	事業対象者	要支援1	要支援2	合計
令和5	311	401	768	1,480
令和4	149	532	494	1,175

●通所介護事業 区別延べ利用者数及び割合

年度		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
令和5	延べ利用者数	2,540	1,204	430	306	157	4,637
	割合 (%)	55	26	9	7	3	-
令和4	延べ利用者数	3,335	1,130	593	404	177	5,639
	割合 (%)	59	20	11	7	3	-

●基準緩和通所型サービスA（ゆりかもめA）

要支援状態又は事業対象者である方に対し、残存機能を生かし可能な限り居宅において自立した日常生活を営めるよう心身の機能維持・向上を目指し、他者との交流、高齢者ストレッチ、健康講座、脳トレ等を中心としたサービスを提供した。基準緩和通所型サービスAから介護予防通所介護もしくは通所介護へ移行した利用者が多く、途切れない支援を行うことができた。

令和5年度	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	年間合計
	実利用者数	27	27	25	24	26	25	実利用者数 304名 延べ利用者数 1,014名
	延べ利用者数	94	98	97	86	72	82	
	月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
	実利用者数	26	25	25	25	23	26	
	延べ利用者数	83	78	88	71	66	99	
令和4年度	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
	実利用者数	29	24	27	27	25	27	実利用者数 379名 延べ利用者数 1,305名
	延べ利用者数	106	114	112	117	138	107	
	月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
	実利用者数	26	30	30	30	29	27	
	延べ利用者数	116	109	103	87	95	102	

●基準該当生活介護事業（障害者）

介護を必要とする障害者に対して、主に昼間において、入浴・排泄・食事等の介護、生活等に関する相談、身体機能や生活能力の向上のために必要な援助を行った。

営業日数	293	利用者数	3	延べ利用者数	92
------	-----	------	---	--------	----

(4) くす在宅介護支援センター

①総合相談

市からの委託を受けて楠地区を担当エリアとし、高齢者・障害者等の各種相談に対応した。相談内容に応じて、介護保険サービスのほかに高齢者福祉サービスの申請代行及びインフォーマルサービスが利用できるように調整を行った。また、平成31年度から訪問給食を受託している。

令和5年度実績3,661食（昼食：1,218食、夕食：2,443食）

令和4年度実績4,700食（昼食：1,548食、夕食：3,152食）

<相談件数>

	本人	家族	その他	合計
来所	72	150	57	279
訪問	563	17	16	596
電話	142	275	457	874
令和5年度 合計	777	442	530	1,749
令和4年度 合計	871	411	636	1,918

②地域介護予防普及啓発、福祉活動推進事業

- ・転倒骨折予防教室「こけねえずクラブ」の開催(毎月：第1・3水曜日)
参加人数：平均16.5名/月
- ・若がり体操教室(毎月第1火曜日)参加人数：平均16.8名/月
- ・元気応援体操(毎月第2火曜日)参加人数：平均5.1名/月
- ・地域行事への参加
ふれあいいいきサロン等へ参加し、在宅介護支援センターのPR、介護予防体操、認知症予防等の出前講座を実施した。
- ・家族介護者の集い「ほんわかカフェ(認知症カフェ)」の開催 毎月1回 合計：69名参加
- ・住民主体通所型サービス団体「楠の木サポート通所事業所」の運営支援
- ・楠地区民生委員児童委員協議会定例会への参加(毎月第2木曜日)
- ・「くすりんフェスタ」「RUN伴+四日市」「ひとり暮らしふれあい会」「共に支える～あふれる・ふれあい・支え合い～」への参加
- ・認知症サポーター養成講座の開催
- ・楠地区内居宅介護支援事業所情報交換会の開催

③介護予防推進事業

- ・出前講座形式で「介護予防普及啓発講座」の開催(全13回)

④地区地域ケア会議の開催

- ・地域住民によるミニ地域ケア会議 令和6年2月 3日
- ・各団体代表による地域ケア会議 令和6年3月13日

⑤健康不明者状況把握事業

- ・アウトリーチ支援 11件

(5) 居宅介護支援事業所

近年、虐待、ターミナルケア、認知症独居、若年ケース等さまざまな環境におかれた利用者が増えてきている。また、介護者への支援が必要なケース(介護者が認知症、精神疾患、未成年等)もあり、多職種多様の事業所や関係機関と連携調整が必要となってきたなか、利用者ニーズに即した質の高いサービスを提供する事を目標にマネジメントを行い、居宅サービス計画を作成した。

年度	居宅サービス計画(ケアプラン)作成件数	1ヶ月平均件数
令和5	居宅サービス計画作成 653	88.1
	介護予防プラン作成 343	
	マネジメントA、B作成 62	
令和4	居宅サービス計画作成 807	103.1
	介護予防プラン作成 353	
	マネジメントA、B作成 77	

- ・市介護保険サービス事業者連絡会への参加(4回)
- ・四日市市ケアマネジャー向け研修会(1回)
- ・南圏域居宅介護支援事業所研修会への参加(1回)
- ・市在宅医療・介護連携支援センター ステップアップ研修への参加(1回)
- ・みなみ地域医療・介護ネットワーク会議への参加(2回)

(6) 介護保険認定調査室

要介護認定調査にかかる事務の一部を市から受託した。

令和6年能登半島地震に関する支援状況

①東海北陸県社協・市社協でのブロック派遣への職員派遣

災害時に全国の社協ネットワークを活用した支援体制が構築される。
三重県社協の依頼に基づき輪島市社協へ職員を派遣した。

派遣日	派遣内容	派遣人数
1月23日～30日	輪島市社協の支援 社協活動のバックアップ、職員のケア・レスパイト、法人運営復帰支援 地域訪問によるニーズ聞き取り	1
3月2日～8日	輪島市社協の支援 社協活動のバックアップ、職員のケア・レスパイト、法人運営復帰支援 地域訪問によるニーズ聞き取り、 災害ボランティアセンター立ち上げ支援及び運営支援	1

②被災者支援ネットワーク「チーム四日市」

令和6年1月1日に発生した能登半島地震の被災者支援を実施するために、市内の複数の団体からなる「チーム四日市」が設立された。当会はその事務局を担い、情報交換会議の開催、支援金の募集と管理を行った。

a 情報交換会議：3回

b 支援金募金活動：支援金合計 2,096,003円（令和6年3月31日現在）

（内訳）街頭募金：8回（参加人数 115名） 967,274円

イベント募金：6回 14,207円

寄付受付：13の個人・団体 1,114,522円

c 支援活動

活動日	内容	協力団体（敬称略）・助成金額	参加人数
2月7・8日	石川県輪島市二勢町 へ炊き出し支援	四日市大学支援の会、らーめん空、とんてき協会、堀製麺、四日市消防職員協議会、四社協職員 (助成金額合計 128,000円)	29
3月8・9日	石川県輪島市門前町 避難所へ足浴支援	四日市大学支援の会 (助成なし)	8
3月23～25日	石川県輪島市門前町 イベント開催支援	四日市大学支援の会、四日市看護医療大学 (助成なし)	9
3月24・25日	石川県輪島市門前町 へ炊き出し支援	ラーメン空、堀製麺、四社協職員 (助成金額合計 99,000円)	7